

業務資料 No. 527

オンタリオ州移住者動態調査

昭和54年9月

国際協力事業団



RY

国際協力事業団

受入月日 '84. 3. 30

80/

23.4

登録No. 02210

EPS

は し が き

カナダへの日本人移住は1877年に永野万蔵が、バンクーバー周辺に定着したのが始まりで、今年で102年目にあたる。これは、1867年に英国の北アメリカ条例によりカナダの建国がされているので、日本からの移住者は、ほぼカナダ建国とともに定住して来たことになる。

また、今年は日本とカナダとの外交関係が締結されてから、丁度50年目の年を迎えることとなった。今日では、日本とカナダの関係は通商のみならず、経済、政治、文化と広い範囲に及んでいる。

一方カナダ移住者(日系人)は現在までに38,466人、オンタリオ州には18,685人が定住しており、一步一步カナダ社会にとけこみつつ新しい生活を着実に築いている人が多い。

オンタリオ州の動態調査は昭和47年度及び昭和50年度に過去2回実施している。今回の調査もその実績をふまえて、今後移住するであろう移住希望者に対して最新の、移住者の動態、就労、生活状況などの情報を提供するために調査を実施した。

国内支部に於いては、移住希望者に対する相談業務資料として、きわめて貴重な情報がもられているので、十分本動態調査内容を研究し、活用願いたい。

最後に、本調査に協力下さったオンタリオ州の移住者の方々及び新移住者協会等の関係各位に対し、ここに深く感謝の意を表する次第である。

昭和54年9月

国際協力事業団
移住計画調査部長

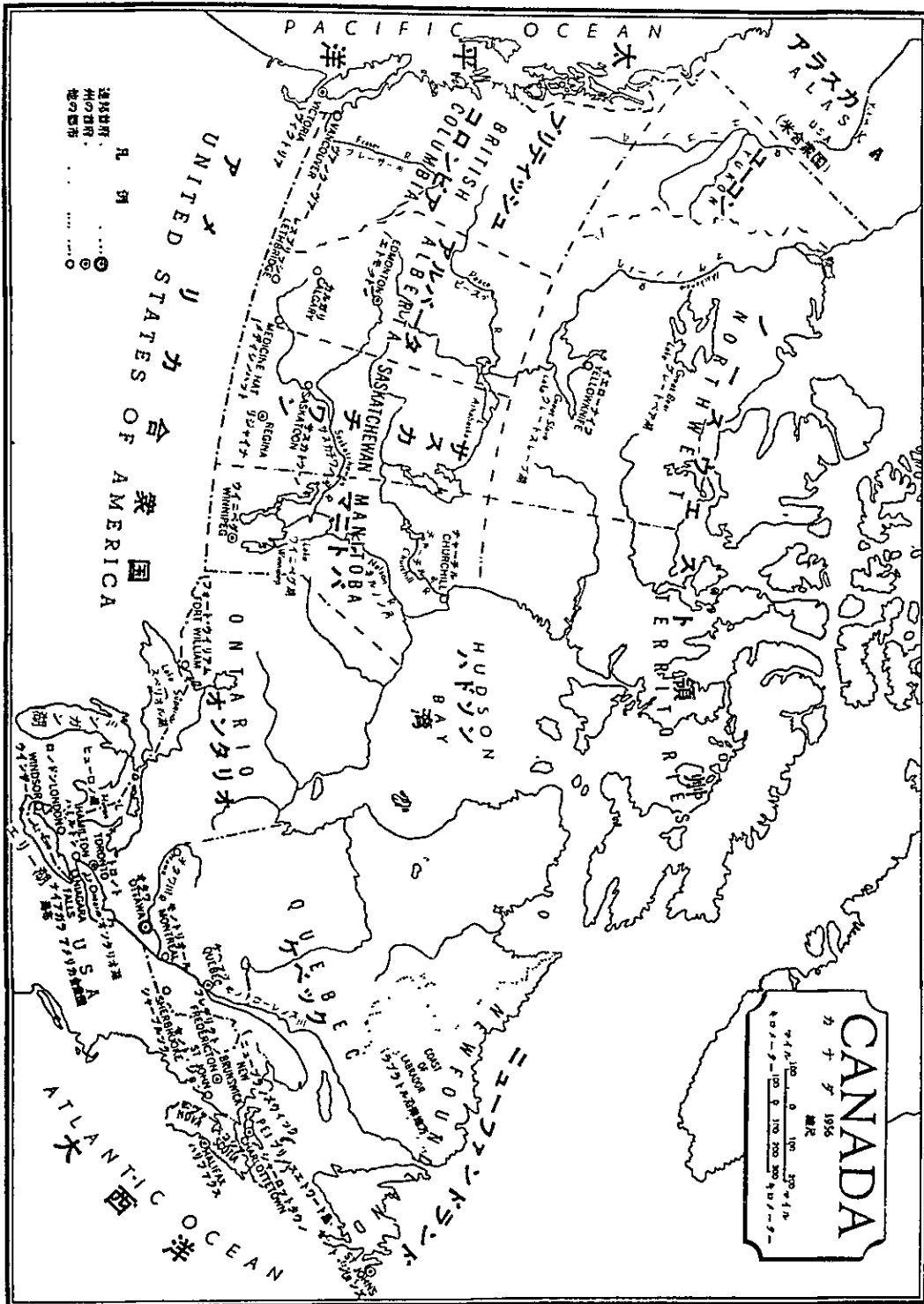
JICA LIBRARY



1035631[9]

目 次

1. 一 般 概 況	1
2 調 査 の 概 要	7
3 調 査 結 果 の 集 計	27
4. カナダ三州移住者アンケート集計の比較表	75
5 移住者連絡先一覧.....	85



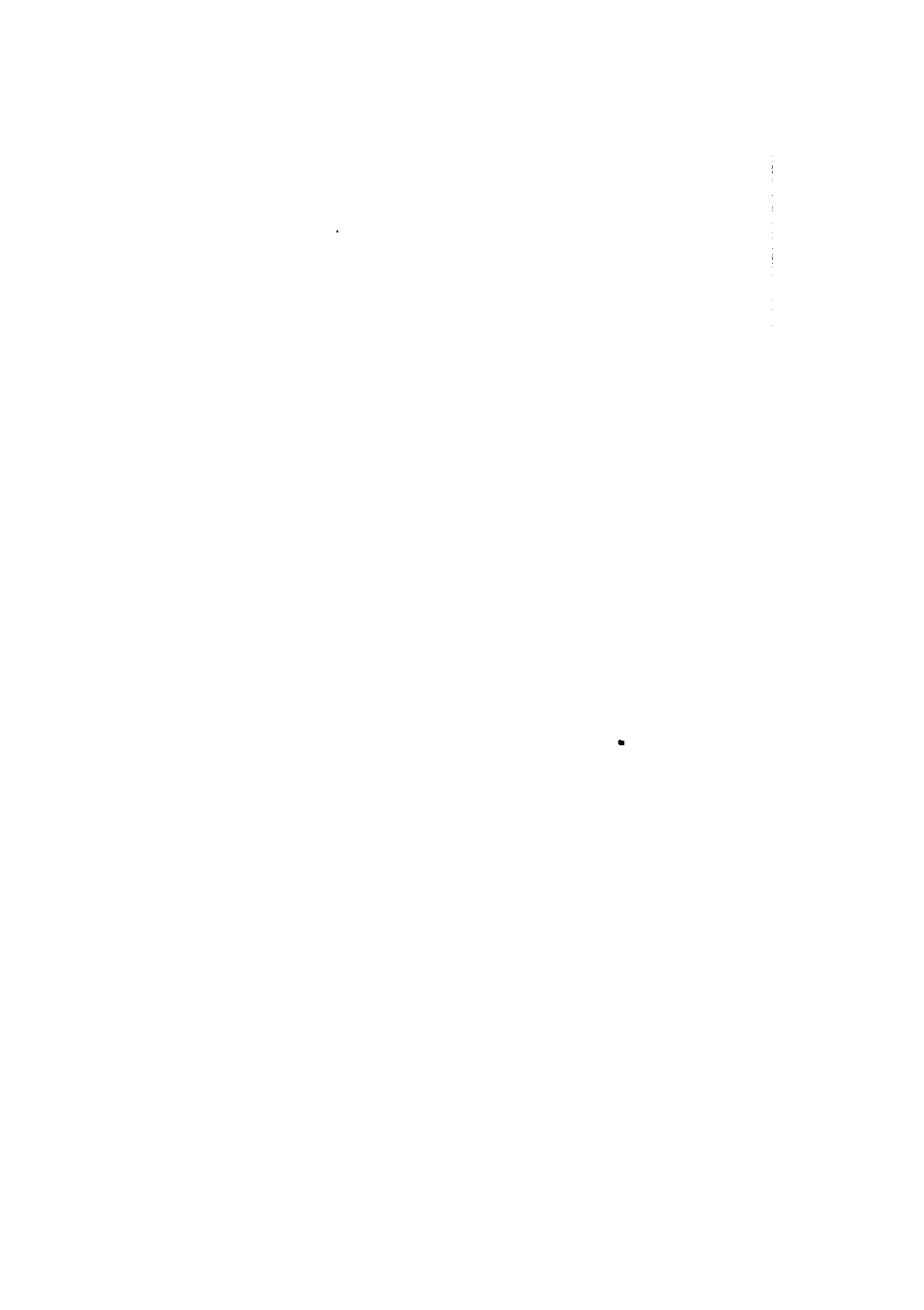
国境線
 州の境界
 市の境界

北 緯
 東 経
 合 衆 国
 美 国
 UNITED STATES OF AMERICA

CANADA
 カナダ
 1956
 縮尺 1:100,000
 100 200 300 400 500 600 700 800 900 1000
 単位 キロメートル

1. 一般概況

(1) カナダの国	1
(2) オンタリオ州の概要	1
(3) カナダの日系人の現況	2



1. 一般の概況

(1) カナダの国

- カナダの国は、ソ連に次ぐ世界第2位の広さをもち、その面積は約996万平方キロ。これは日本の約2.7倍（日本は約37万平方キロ）であって、北米大陸のほぼ半分を占めている。気候はカナダの最南端で北緯41度41分（日本の青森県北方）に位し、最北端は北極圏に達するため全国的に、寒冷ないし冷涼である。
この気候の関係上、総人口約2,300万人の80%である約1,800万人は、アメリカとカナダの国境線から320km以内の南部に居住している。
- カナダ国はイギリス女王を元首に戴く立憲君主国で、総督が女王を代表し、そのもとに三権分立の制度が確立されており、英連邦の一員としてイギリスとの深いつながりを持つと同時にアメリカとも経済・文化的に極めて、密接な関係を持っている。

(2) オンタリオ州の概要

- 面積約100万平方キロ。オンタリオ州に着いて第一に驚かされるのは、その途方もない広さである。
オンタリオ州の広さは、イギリスの4倍以上、日本のほぼ3倍の大きさに達している。
この州の住民は800万人を上回るが、その大部分は五大湖のなかで一番南に位置している2つの湖に近く、穏和な気候風土（カリフォルニア州北部と同緯度）のなかで暮らしている。
- 夏には、暑い日射しが1日約10時間照りつけ、平均気温は25℃前後である。6月の初めから9月の末までなら、いつでも日光浴をすることができる。
秋は、日中あたたかいが、夜間は冷えこむ。初霜があり、日本の紅葉のような木の葉が深紅色や金色に変わる光景を経て、やがて初雪の冬景色が見られる。
冬の平均気温は、南部では-10℃～0℃（ベルリンの気温がそのくらい）。北部では、これよりも寒さが厳しい。だいたい冬のあいだは、カリカリした雪が大地をおおっている。
そして、春は、雪や氷がとけ、花が咲き、自然がよみがえる。
- オンタリオ州の政治機構は連邦政府機構とほとんど同様であり、副総督が女王を代表している。副総督は、5年の任期で、連邦政府首相の推せんにより総督が任命する。
立法機関としては、公選議員からなる州議会がこれにあたり、州議会は一院制である。
行政機関としては、州議会において多数を占める政党により組織された首相と州大臣があたり。
この州にも治安判事裁判所から、最高裁判所に至るまで一連の州裁判所がある。
- オンタリオ州はカナダ経済の中心である。カナダ全人口および労働力の40%弱、国民総生産の40%以上がオンタリオ州に集中している。
人口増加率もカナダの平均を上まわり、特にトロント市の人口増加率は4～5%といわれている。失業率は逆に、全カナダの平均を1%以上下まわり、この点からいっても就職機会の多いことがわかる。オンタリオ州では、製造工業の比重が大きい。たとえば自動車生産の90%以上、産業用電気機械、鉄鋼生産の80%以上を占めている。

オンタリオ州の経済といっても、ほとんどがトロントを中心とする五大湖周辺とセント・ローレンス河流域に限定され、この地域によって、オンタリオ州経済の90%は動いているといっても過言ではない。

鉱業も非常に盛んであり、カナダが産出するほとんどのニッケル、プラチナおよび多くの金・銀・コバルト・塩は、オンタリオ州で採掘されている。また、世界で最大の滝「ナイアガラの滝」は、この州の水力発電の重要な資源となっている。

- 林業においては州面積の約40%である40万平方キロは森林資源産業地帯があり、オンタリオ州はブリティッシュ・コロンビア州に次いで、カナダ第2位の木材産出を誇っている。この州は、カナダで最も肥沃な農耕地帯でもあって、国全体の農産物の約30%を生産する。また、高度の多角経営農業が行なわれ、酪農、畜産やタバコ、野菜、果実の栽培がなされる。
- 海外からオンタリオ州へやってくる人たちのほとんどは、トロント国際空港へ、まず到着する。このトロント市にはオンタリオ州の人口の約25%である200万人以上が集まり多種多彩な国民が居住している都会である。ここでは、日本からの多数の商社、銀行、製造会社か現地法人や駐在員により活発な経済活動を行なっている。
日本人学校としては、1949年9月に創設されたトロント市日本語学校がある。また、広く日本文化を紹介するため1963年9月には日系文化会館が開設され、日系人のみならず、カナダ人をも対象に多彩な文化的事業を行なっている。

(3) カナダの日系人の現況

- 明治中期以降に日本人のカナダ移住が活発化し、主としてバンクーバー周辺において漁業に従事していたが、排日運動がおこり、1907年に日本とカナダ両国間に紳士協定が結ばれ、カナダ移住が制限されるようになった。さらに1928年にその制限がきびしくなり、日本人の移住割当が年間150人に制限された。
1941年当時の在加日系人は約23,000名と推定され、その90%以上が太平洋岸のブリティッシュ・コロンビア州に居住していたが、第2次世界大戦により日系人は奥地へ立退きを命ぜられた。
戦後約3,000名の日系人が希望により日本へ帰国したが、大部分は各地に分散して再出発し、現在では、カナダ社会にとけこみざましい発展と高い信用をえている。
- 外務省の1978年海外在留邦人数調査統計によると、トロント市を中心としたオンタリオ州には約18,600人、バンクーバー市を中心としたブリティッシュ・コロンビア州には約12,500人、モントリオール市のあるケベック州などには約2,000人、エドモントン市のあるアルバータ州には約3,600人、ウィネブグ市のあるマニトバ州などには1,500人おりカナダ全域で約38,500人の日系人が居住している。
日系人とは日本国籍は有しないが、民族的に日本系とみなしえる人で、例えば、一世あるいは二、三世を意味する。一方、日本国籍保有者である永住者はカナダ全域で約6,800人居住している。

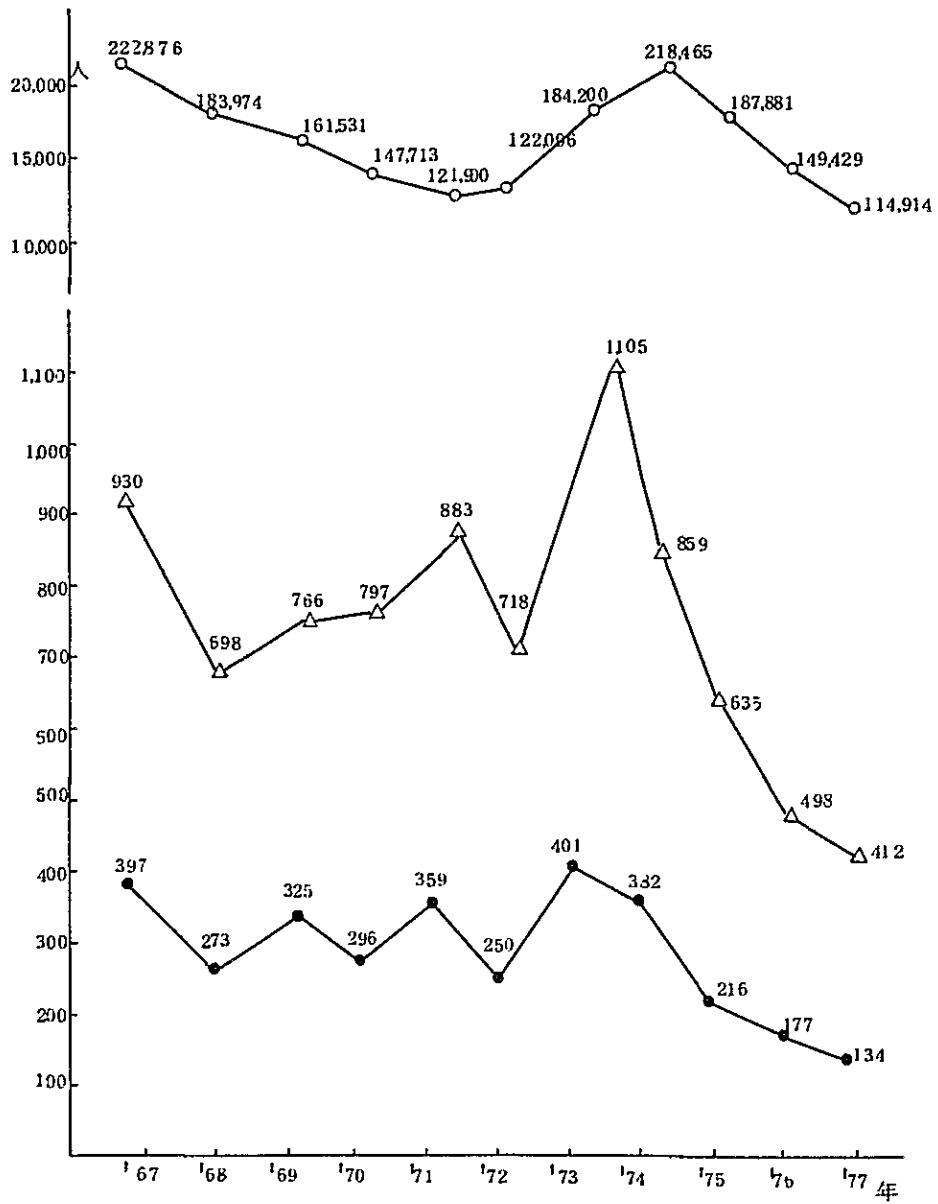
○次の年度別移住者推移表からわかるように過去10年間の日本人のオンタリオ州への移住者は1973年が401名で最高を示している。同時に、日本人のカナダへ移住した人がいちばん多いのも1973年で1,105名を示している。

全世界からのカナダへの移住者が1974年から減少しだしているのは石油問題による世界的な経済不況によるものと、カナダの国内経済の停滞により、移住政策を規制したものと思われる。

しかし、最近、在日カナダ大使館では日本人移住者の受入れに積極的姿勢を見せており、今後移住者数が徐々にではあるが増加する期待が持たれている。

年度別移住者推移表

- 全世界からのカナダへの移住者数
- △—△ 日本人のカナダへの移住者数
- 日本人のオンタリオ州への移住者数



2. 調査の概要

(1) 調査の方法	7
(2) 分類集計の方法	7
(3) アンケート回答者の傾向	16
1-1 男女別・未既婚別	16
1-2 男女別・未既婚別推移表	16
2 既婚者家族構成別	17
3-1 年令別	18
3-2 男女別・年令別表	18
4 在加年数別	20
5 学歴別	20
6 職種別	21
7 国籍別	22
8 出身県・ブロック別	23

2. 調査の概要

(1) 調査の方法

- 調査期間： 本調査は1978年10月までの4ヶ月間に行なった。
- 調査方法： 当事業国トロント駐在員事務所を通じ、資料1の調査用紙（無記名、アンケート方式）をオンタリオ州在住の日本人移住者（戦後移住者）に郵送で配布し回収した。
- 抽出源： 新移住者協会、日系会社勤務移住者、カナダ移住トレーニング・コース受講者、総領事館資料（在留届、婚姻届、出生届）、その他スポーツ、趣味、交友等のグループ。
- 調査件数

	今回(昭和53年)	前回(昭和50年)	前々回(昭和47年)
調査用紙配布総数	500部	498部	458部
有効回収部数	192部	178部	248部
無効回収部数	10部	8部	0部
有効回収率	38.4%	35.7%	55.1%

(2) 分類集計の方法

- 本調査は、オンタリオ州戦後移住者を対象にしたものであり、前回（昭和50年）、前々回（昭和47年）の調査と比較し、その推移検討をしやすいするため、記入方法が明確でない部分に、修正を加える以外、大半は従前と同一のアンケート様式をもちたい。
- アンケート項目は、単純集計にとどまらず、職種別、未婚婚別、在加年数別等も考察に入れて、集計分析を行なった。
- また、ケベック州やブリティッシュ・コロンビア州などのオンタリオ州以外の州との調査内容の類似点や、差異点をみることにより、カナダ国内での地域差から来る移住者の生活の差を明確にするよう努めた。

資料 1

カナダ移住者動向調査票

調査票記入年月日 197 年 月 日

年令	才	性別	男・女	本既婚の別	未婚・既婚	出身	都・道・府・県	国籍
日本での最終学歴	中学・高校・高等・知大・大学・大学院・その他	卒業・中退	卒業・中退	卒業・中退	卒業・中退	卒業・中退	卒業・中退	卒業・中退
入国年月	年	月	日	入国時家族構成	単身・家族員数計	名		
現在の状況	自営・雇用・学生・無職・家町	現在の職種						

現在の家族構成

続柄	年令	性別	出生国	職業	続柄	年令	性別	出生国	職業
長または次		男・女	日本・カナダ・その他	有・無・学生			男・女	日本・カナダ・その他	有・無・学生
		男・女	日本・カナダ・その他	有・無・学生			男・女	日本・カナダ・その他	有・無・学生
		男・女	日本・カナダ・その他	有・無・学生			男・女	日本・カナダ・その他	有・無・学生

〔本調査票のご記入について〕

- 1 本調査は日本人移住者の皆様がカナダ社会に適応していかれる過程で直面された問題や現在皆様がかかえておられる問題等を把握し、これからの移住政策に反映させることを目的に行なうものであります。前回ご記入願った方には、たびたび恐縮ですがその後の変化も承知いたしたいと存じますのでご協力下さい。
- 2 本調査はカナダ移住希望者にカナダ移住の現状を知らせる好個の資料となっております。プライベートに立ち入りすぎる設問もあると存じますが調査の趣旨をご理解願ひ、氏名等の記載は不要であり、ありのままの实情についてお知らせ頂きたいとご協力をお願いします。
- 3 アンケートには、該当するものに○をおつけ下さい。また記述式の場合は要点を概略お書き下さい。
- 4 回答部分の余白が不足のときは、他の紙に記載し、添付して下さい。
- 5 ご多忙のところまことに恐縮ですが、ご記入の上は至急ご返送願えれば幸いです。

国際協力事業団

ア ン ケ ー ト

1 共 通 (自営者はⅡにもお答え下さい)

問	回 答	問	回 答
1 カナダに移住してよかったですか。	A. 思う B. 普通 C. また わからない D. 失敗	7 カナダでの最初の住居はどのよ うにして見付けられましたか。	A. 日系団体の紹介 B. 新威知人の紹介 C. マンパワーセンターの紹介 D. ボランティア機関の紹介 E. 新聞等の広告 F. 業者 G. その他 ()
2 カナダに定住しますか。	A. 定住する B. またわからない C. 他国へ転住 D. 日本へ帰国	8 カナダで最初の仕事につくまで にどの位かかりましたか。	A. 渡航前に決定していた B. 2週間以内 C. 1カ月以内 D. 2カ月以内 E. 4カ月以内 F. 4カ月以上
3 カナダに帰化しますか。	A. 帰化する B. まだわからない C. 帰化しない		
4 カナダは期待していたとお りでしたか。	A. 予想以上 B. 予想どおり C. 予想以下		
5 渡航時の携行金はどの位で したか。	A. \$ 500 以下 B. \$ 501 ~ \$ 1,000 C. \$ 1,001 ~ \$ 2,000 D. \$ 2,001 以上		
6 入加当初最も困ったことは 何ですか。	A. 言葉 B. 習慣の違い C. 就職 D. 住居 E. 相談相手のないこと F. 低収入 G. その他 ()		

<p>15 現在の資産状況をお知らせ下さい。</p>	<p>A. 現預金 B. 会社債 C. 不動産 D. 自動車 E. その他 計</p>	<p>18 借入はどのような容でしたか。 (1) 借入先はどこですか。 (2) 資金使途は何でしたか。 (3) 借入利息はどうでしたか。</p>	<p>A. 銀行 B. 日系団体 C. 知人、友人 D. その他() A. 住居 B. 住居付設備 C. 自動車 D. 生活資金 E. 医療費 F. その他() A. 年利 % B. 日歩 A. マンパワーセンター等の語 学訓練 B. 学校に通学 C. 家庭教師 D. 独 学 E. その他()</p>
<p>16 現在の負債状況をお知らせ下さい。</p>	<p>A. 長期 B. 短期 計</p>	<p>19 カナダでの言語習熟方法はどうか。</p>	<p>A. ほとんど感じない B. 日常生活に特に不自由ない C. 不自由で勉強中 D. 不自由だが特に勉強して ない</p>
<p>17 借入は容易でしたか。 。困難であった場合、その理由は何でしたか。</p>	<p>A. 非常に容易であった B. 容易であった C. 普通 D. 困難であった E. 非常に困難であった F. 借りたことがない</p>	<p>20 英語の不自由は感じますか。</p>	

問 質	回 答	問 質	回 答
21 職場等で英語に慣れるまでの位かかりましたか。	A. 最初から B. 3カ月程度 C. 6カ月程度 D. 1カ年程度 E. 2カ年程度 F. 3カ年以上	24 結婚の相手についてどう考えますか。 ○未婚の方	A. 日本から呼びたい B. 当地の日本人を選びたい C. 日系2世3世等を選びたい D. 日系以外から選ぶ E. 人種、民族を問わない F. 今のところ考えていない A. 日本から呼ぶべき B. 当地の日本人が良い C. 日系2世3世等が良い D. 日系人以外が良い E. 人種、民族は考えなくとも良い
22 子供の日本語教育はどう考えますか。 ○子供をお持ちの方	A. 必要あり。日本語学校に通わせている B. 必要あるかまだ通わせていない C. 必要ない。家庭教育が良い D. 全く必要ない A. 必要あり B. 必要ない。家庭教育が良い C. 必要ない。カナダの学校教育で良い	25 未婚の方で日本からと答えたい方は結婚相手をどう探しますか(またはどう探しましたか)。	A. 親族、親戚を通じ B. 知人、友人を通じ C. 移住関係者を通じ D. 一時帰国して E. その他()
23 子供の、学校による日本語教育が必要と思われる方は現状をどう考えますか。	A. 学校、教師、教具、教材とも昔通程度に備わっている B. 学校が足りない C. 教師が足りない D. 教具、教材が足りない E. その他()	26 既婚の方で日本から夫人を呼ばれた方はどうでしたか。	A. 親族、親戚を通じ B. 知人、友人を通じ C. 移住関係者を通じ D. 一時帰国して E. 日本在住時から F. その他()

<p>27 結婚問題で阻害要因は何だ と思いますか。</p>	<p>A. 対象者が少ない B. 対象者を探す機会が少ない C. 仲介者がいない、または少ない D. 経済的に困難 E. その他()</p>	<p>30 日系人団体組織に加入していま すか。 ○ 加入している方 (1) 会合にはどの程度出席して いますか。 (2) 入会した動機は何ですか。 ○ 加入していない方 (1) 不加入の理由は何ですか。 (2) 他のクラブ等のグループ に参加していますか。</p>	<p>A. 会合ある都度 B. 2回に1回程度 C. 数回に1回程度 D. ほとんど出席していない E. 全く出席していない</p>
<p>28 新聞、雑誌は主として何を お読みですか。</p>	<p>A. 日本から定期購読している B. 日本の知り合いから送られ る C. 日本語のものを店頭で購入 する D. カナダの日産紙を購読 E. 英字または仏字のもののみ F. 日語のもの、英(仏)字の もの半々</p>		<p>A. 時間が合わない B. 勉強、研究を優先 C. 他の交際を優先 D. 日本人とは交際しない E. その他()</p>
<p>29 カナダでの比較的親しい友 人の数はどの位ですか。</p>	<p>日 本 人 名 日 系 人 名 日 系 以 外 名</p>		<p>A. 参加している (A) スポーツ (B) 文 化 (C) その他 B. 参加していない</p>

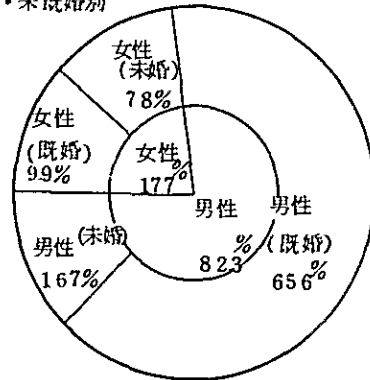
質 問	回 答
<p>31 将来独立の計画はありますか。</p>	<p>A. ある (A) 農 業 (B) 工 業 (C) 商 業 (D) サービス業 B. ない C. わからない</p>
<p>32. 移住の動機についてお聞かせ下さい。</p>	
<p>33 カナダ人に対する貴方の印象をお聞かせ下さい。</p>	
<p>34 移住希望者へアドバイスをお願いします。</p>	
<p>35 国際協力事業団への要望がありましたらお聞かせ下さい。</p>	

II 独立自営者の方

質 問	回 答	質 問	回 答
<p>1 現在の経営状況 ○経営主体は次のどれですか。 ○経営事業は次のどれですか。</p> <p>2 独立の動機をお聞かせ下さい。</p>	<p>A. 個人経営 B. 共同経営 A. 農業 B. 工業 C. 商業 D. サービス業</p>	<p>5 独立までの準備期間はどの位でしたか。</p> <p>6 購入先、販売先等はどうのよう に開拓されましたか。</p>	
<p>3 独立のための所要資金はどの ように調達しましたか。</p>		<p>7 経営上困難な問題は何でしたか。</p>	
<p>4 独立資金にカナダの金融機関 からの借入金がある場合どの ような内容ですか。</p>	<p>A. 金融機関名 B. 政策資金の場合の名称 C. 借入のための担保 D. 償還期間 E. 借入利率 年利 日歩</p>	<p>8 今後の経費上の抱負をお聞かせ下さい。</p>	
		<p>9 独立自営を目指す移住者へアド バイスをお願いします。</p>	

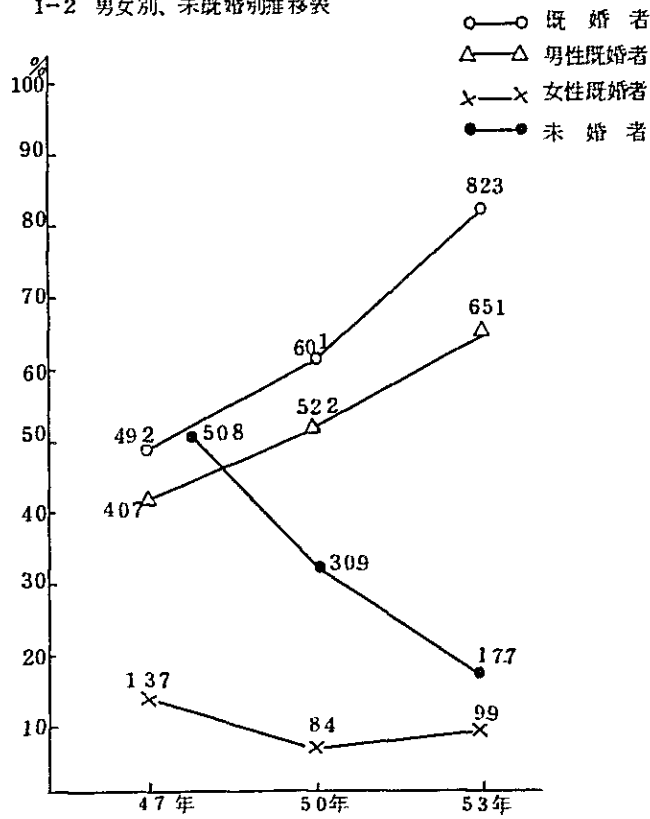
(3) アンケート回答者の傾向

1-1 男女別・未既婚別



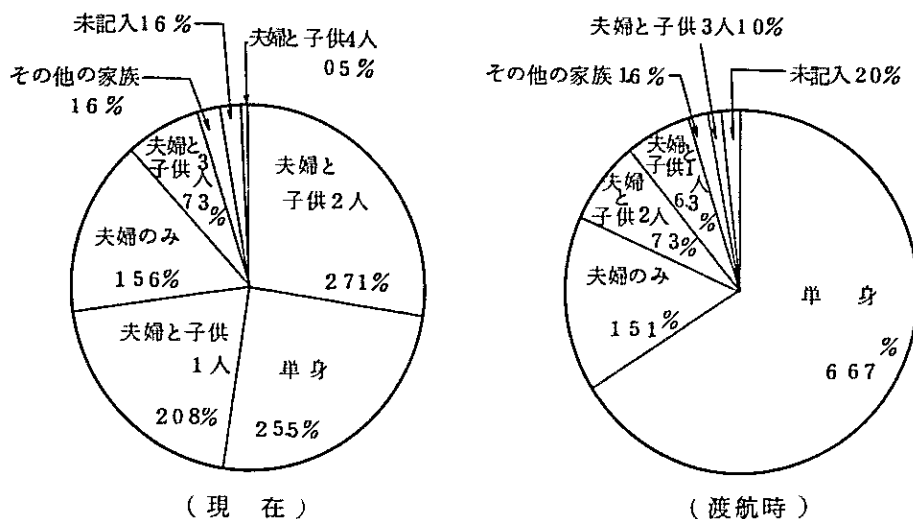
男性は82.3%、女性は17.7%で男性の方が多い。

1-2 男女別、未既婚別推移表



48年以降に既婚者が多くなっていることは、移住者として独身移住者のカナダ入国数が減少していることを示している。
また、単身者が徐々に結婚して、既婚者のカラゴリーに入って来て、既婚者が増加したとも考えられる。

2 既婚者家族構成別

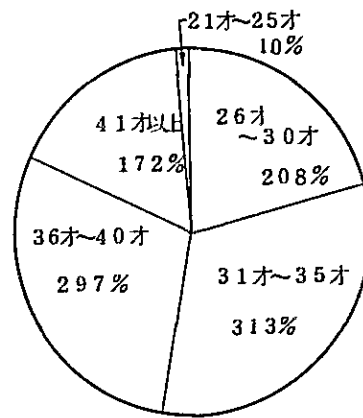


1の項目に関連して、単身者が渡航時に66.7%であったものが現在では25.5%になっている。

家族構成	性別		現 在			渡 航 前		
	男	女	男	女	計	男	女	計
単 身	32	17	49 (255)	101	27	128 (667)		
夫 婦 の み	25	5	30 (156)	23	6	29 (151)		
夫婦と子供1人	37	3	40 (208)	12		12 (63)		
夫婦と子供2人	45	7	52 (271)	14		14 (73)		
夫婦と子供3人	14		14 (73)	2		2 (10)		
夫婦と子供4人	1		1 (05)					
その他の家族	1	2	3 (16)	2	1	3 (16)		
未 記 入	3		3 (16)	4		4 (20)		
計	158 (823)	34 (177)	192 (1000)	158 (823)	34 (177)	192 (1000)		

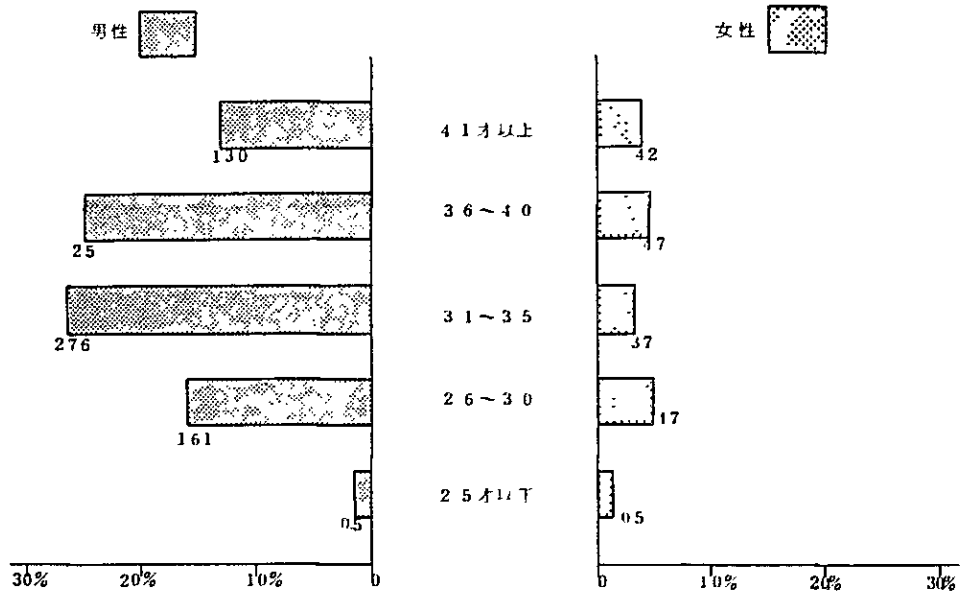
3. 年齢別

3-1 年齢別



〔31才~35才が31.3%と多い。〕

3-2 男女別・年齢別表

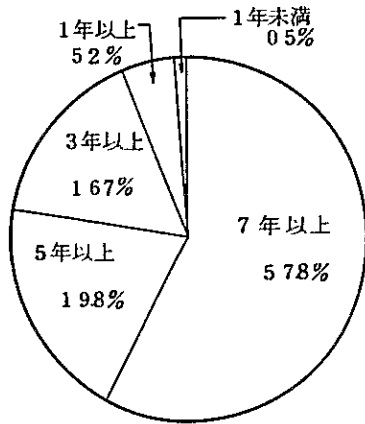


〔男性の31才~35才代が移住者の中で最も多く占めている〕

注()は%を示す

性別 未既婚 年齢	男				女				
	未	既	未記入	計	未	既	未記入	計	総計
20才以下									
21~25	1			1 (05)		1		1 (05)	2 (10)
26~30	16	15		31 (161)	6	3		9 (47)	40 (208)
31~35	9	44		53 (276)	1	6		7 (37)	60 (313)
36~40	6	42		48 (25)	5	4		9 (47)	57 (297)
41才以上		25		25 (130)	3	5		8 (42)	33 (172)
計	32 (167)	126 (656)		158 (823)	15 (78)	19 (99)		34 (177)	192 (1000)

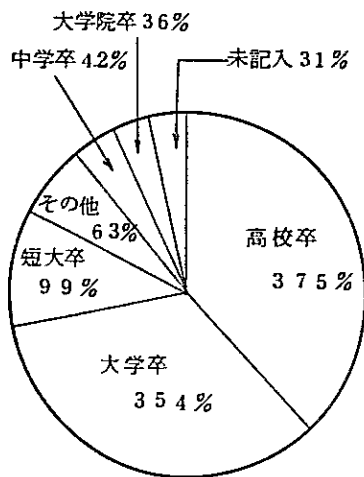
4. 在加年数別



[7年以上がトップで57.8%となっている]

在加年数	性別		総計
	男	女	
7年以上	89	22	111 (578)
5年以上	30	6	38 (198)
3年以上	31	1	32 (167)
1年以上	7	3	10 (52)
1年未満	1		1 (05)
未記入			
合計	158 (823)	34 (177)	192 (1000)

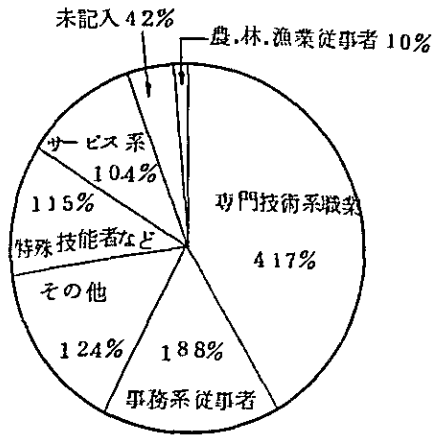
5. 学歴別



[前回(昭和50年)の調査では大学卒がトップで48.3%を占めていたが、今回の調査では高校卒が37.5%でトップになっている]

	男	女	総計
大学院卒	6	1	7 (36)
大学卒	59	9	68 (354)
短大卒	9	10	19 (99)
高校卒	61	11	72 (375)
中学卒	7	1	8 (42)
その他	10	2	12 (63)
未記入	6		6 (31)
計	158 (823)	34 (177)	192 (1000)

6. 職種別



性別 職業別	男		女		総計
	人数	%	人数	%	
農 林 漁業従事者	2	(13)			2 (10)
事 務 系 従 事 者	24	(152)	12	(353)	36 (188)
専門技術系 職 業	76	(481)	4	(118)	80 (417)
特 殊 技能者など	20	(127)	2	(59)	22 (115)
サービス業	17	(108)	3	(88)	20 (104)
そ の 他	13	(82)	11	(323)	24 (124)
未 記 入	6	(38)	2	(59)	8 (42)
計	158	(1000)	34	(1000)	192 (1000)

職業分類については次のとおりとした。

1 農業従事者

農夫、庭師、造園業者、牧場経営、酪農業者 難の鑑別師

2 事務系従事者

プログラマー、キーパンチャー、タイピスト、秘書、レストランマネージャー、経理士、事務員、
会社員、連邦政府職員、検査官、貿易業務者、海運事務、証券外務員、司書

3 専門・技術系職業

- ・技術的従事者
- ・教授および教師
- ・医療関係従事者

建築設備技術者、建築製図者、弱電技術者、電子技師、設計技師、工業技術者、機械技師、
工業デザイナー、映写技師、化学技師、化学研究員、カメラマン、動物学者、教師、薬剤師、
衛生検査技師、歯科技工士、ソーンアルワーカー

4 特殊技能者、生産工程従事者および単純労働者

自動車整備工、自動車塗装工、金型工、鋳物工、道具打ち型工、印刷工、機械工、キャビネッ
ト組立工、工場労働者、彫刻師、洋裁師

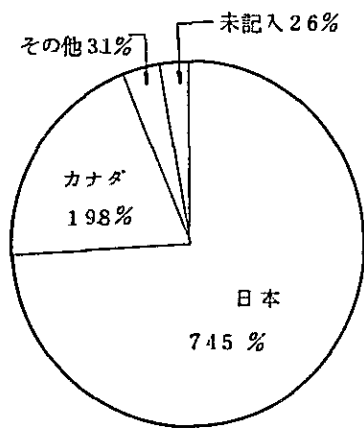
5 サービス業

ギフトショップ経営、レストラン経営、製パン業、ガソリンスタンド経営、個人タクシー、
ホテル従業員、理容師、調理師、ウエイトレス、ウエイター

6 その他

学生、牧師、主婦、無職

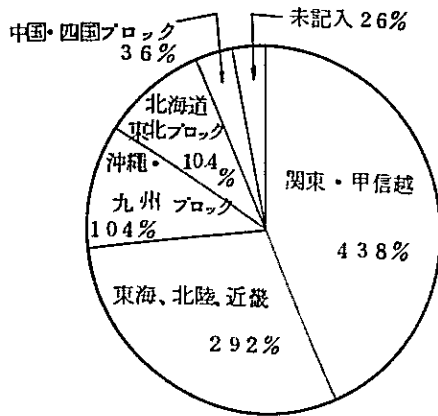
7. 国籍別



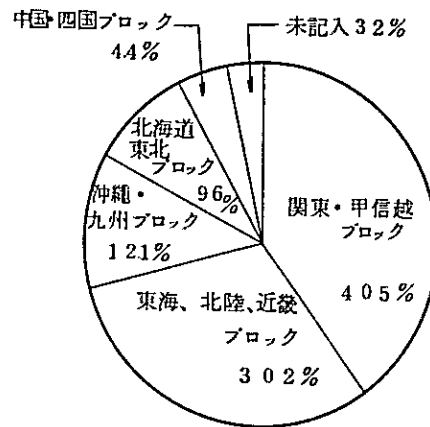
前回の調査では91.0%が日本国籍
でカナダ国籍は6.2%であったが、今
回の調査ではカナダ国籍保持者は19.8
%になり、日系人がカナダ社会に徐々
に定着して来ていることを示している。

性別 国籍	性別		総計
	男	女	
日 本	124	19	143
カ ナ ダ	25	13	38
そ の 他	5	1	6
未 記 入	4	1	5
合 計	158 (823)	34 (177)	192 (1000)

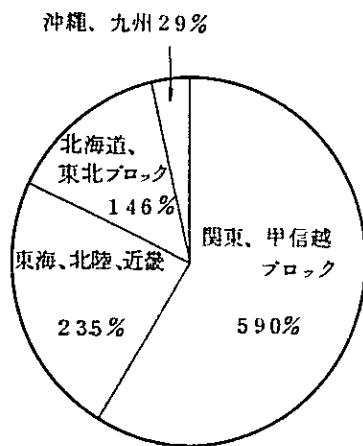
8. 出身県・ブロック別



(総合)



(男)



(女)

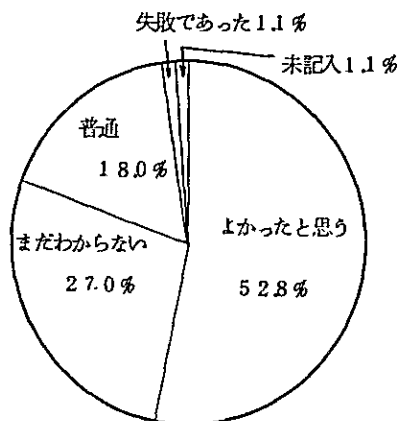
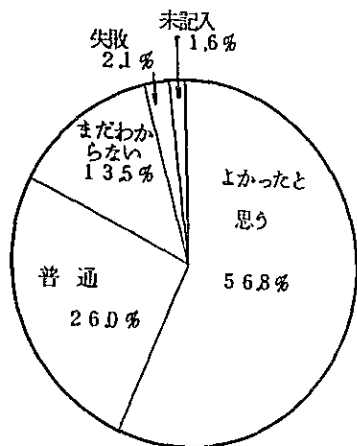
男女とも関東、甲信越ブロックが多い。特に、女性の場合同ブロックは圧倒的に多く(59.0%を示している)。出身県で多いのは東京で全体の21.4%を占めている。次いで大阪が13.5%となっている。

出身地	性別		出身地	性別	
	男	女		男	女
北海道	5(32)	2(59)	奈良		
青森	1(06)	1(29)	和歌山	5(32)	
岩手			兵庫	3(19)	2(59)
宮城	3(19)	1(29)	鳥取		
秋田	2(13)	1(29)	岡山	1(06)	
山形	2(13)		島根		
福島	2(13)		広島	2(13)	
新潟	5(32)		山口	3(19)	
茨城	1(06)		徳島	1(06)	
栃木	2(13)		香川		
群馬			愛媛		
埼玉	4(25)	3(89)	高知		
千葉	2(13)		福岡	7(44)	
東京	27(171)	14(41.2)	佐賀	2(13)	
山梨	1(06)		長崎	2(13)	
長野	5(32)		熊本	2(13)	
神奈川	10(63)	3(89)	大分	1(06)	
静岡	7(44)		宮崎	2(13)	
富山			鹿児島	2(13)	1(29)
石川	1(06)		沖縄	1(06)	
岐阜	3(19)		未記入	5(32)	
愛知	6(37)	1(29)			
三重					
福井	1(06)				
滋賀	4(25)				
京都	3(19)	1(29)			
大阪	22(139)	4(118)	合計	158(1000)	34(1000)

3. 調査結果の集計

表	設 問 内 容	ページ
1	カナダに移住してよかったですと思いますか。……………	27
2	カナダに定住しますか。……………	28
3	カナダに帰化しますか。……………	29
4	カナダは期待していたとおりでしたか。……………	30
5	渡航時の携行金はどの位でしたか。……………	31
6	入加当初最も困ったことは何ですか。……………	33
7	カナダでの最初の住居はどのようにして見つけられてきましたか。…	34
8	カナダでの最初の仕事につくまでにどの位かかりましたか。…………	35
9	カナダでの最初の仕事はどのようにして見つけられましたか。……	37
10	カナダでの転職状況をお知らせ下さい。……………	38
11	現在の仕事に満足していますか。……………	39
12	貴方の仕事の分野で日本と比較するとどうですか。……………	41
13	現在の収入は月額にしてどの位ですか。……………	42
14	現在の1ヶ月の生活費はどの位ですか。……………	43
15	現在の資産状況をお知らせ下さい。……………	44
16	現在の負債状況をお知らせ下さい。……………	45
17	借入は容易でしたか。……………	46
18	借入はどのような内容でしたか。……………	47
19	カナダでの言語習熟はどこでしたか。……………	49
20	生活で英語の不自由は感じますか。……………	50
21	職場等で英語に慣れるまで、どの位かかりましたか。……………	52
22	子供の日本語教育はどう考えますか。……………	54
23	子供の学校による日本語教育。……………	56
24	結婚相手についてどう考えますか。……………	57
25	結婚問題で阻害要因は何だと思えますか。……………	61
26	新聞・雑誌は主として何をお読みですか。……………	62
27	カナダでの比較的親しい友人の数はどの位ですか。……………	63
28	日系人団体組織に加入していますか。……………	64
29	将来独立の計画はありますか。……………	67
30	独立自営者 現在の経営状況……………	69
31	記述回答を求めた質問について……………	70

1. カナダに移住してよかったと思いませんか。



(前回調査)

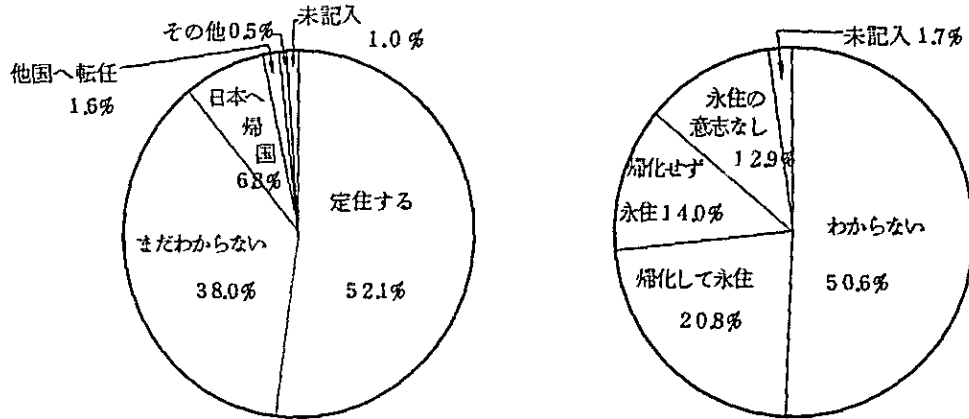
区分	性別	男性							女性							総計
		7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	
A. よかったと思う		57	12	19	2	1		91	12	3	2	1			18	109
								(576)							(530)	(568)
B. 普通		15	13	11	2	1		42	5	2		1			8	50
								(266)							(235)	(260)
C. まだわからない		10	2	5	3			20	3	1		2			6	26
								(126)							(177)	(135)
D. 失敗		1		1	1			3		1					1	4
								(19)							(29)	(21)
未記入		2						2	1						1	3
								(13)							(29)	(16)
計		85	27	36	8	2		158	21	7	2	4			34	192
								(1000)							(1000)	(1000)

「よかったと思う」「普通」との回答が全体の8割強を占め、大半の者が移住したことを失敗とは考えていないようだ。

なお、「よかったと思う」「普通」と答えた比率は男性の方がわずかに高く、又在加年数が長くなった者に高いという傾向が見られる

前回調査との比較では「よかったと思う」「普通」という回答が増え、「まだわからないという」のが減少している。

2. カナダに定住しますか。



(前回調査)

性別	男						女						未記入	計	総計
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年以上	未記入	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年以上	未記入			
A. 定住する	5	9	15	2	1	81	15	4						19	100
	(512)													(559)	(521)
B. まだわからない	22	13	20	1	1	60	6	2	2	3				13	73
	(380)													(383)	(380)
C. 他国へ転任	2			1		3									3
	(19)													(16)	
D. 日本へ帰国	5	5	1	1		12		1						1	13
	(75)													(29)	(68)
その他										1				1	1
							(1)						(29)	(0.5)	
未記入	2					2									2
	(13)													(10)	
計	185	27	36	8	2	158	21	7	2	4			34	192	
	(1000)													(1000)	(1000)

カナダに定住すると回答した人が52.1%と半数以上を占める。この中には帰化した人、これから帰化を希望している人が41.4%含まれている。

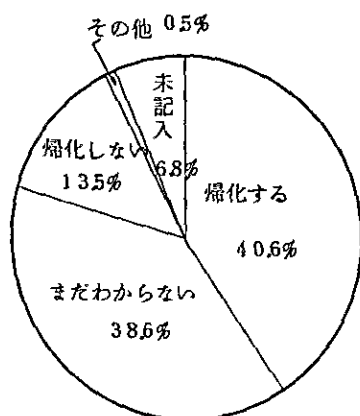
問1の設問に関連して、移住して良かったと思うと答えた人の56.2%からして、予想通りの割合といえよう。

男女別では、特に顕著な差異はみられないが男性に「日本へ帰国」との答が少し多かった。

一般的に、在加年数の長い人ほど永住意志を有する人が多くなっていくようだ。また、まだわからないと回答した人の38.0%の中には在加年数5年以上にも多くの比率を占めているので慎重派も多いということがいえる。

前回調査との比較では設問事項が異なるが、前回調査は帰化して永住、帰化せず永住をあわせても34.8%にすぎず、定住するとする人が多くなったことがうかがえる。

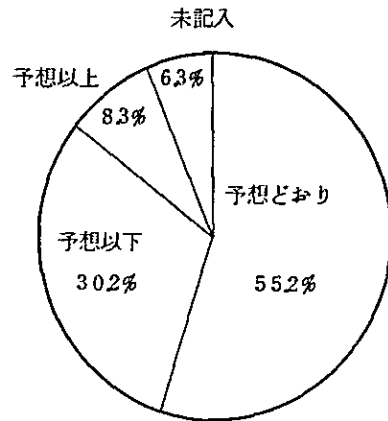
3. カナダに帰化しますか。



区分	性別		男					女					総計				
	在加年数		7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上		1年以上	1年未満	未記入	計
A. 帰化する			44	5	11	2	1		63 (400)	12	3					15 (441)	78 (406)
B. まだわからない			28	12	19	3			62 (392)	6	3	2	1			12 (353)	74 (386)
C. 帰化しない			6	8	4	2	1		21 (133)	1	1		3			5 (147)	26 (135)
その他			1 (カナ人)						1 (06)								1 (05)
未記入			6	2	2	1			11 (69)	2						2 (59)	13 (68)
計			85	27	36	8	2		158 (1000)	21	7	2	4			34 (1000)	192 (1000)

40.6%の人が帰化すると答えたことは、日本人の感覚からするとかなり高い率とも考えられる。少くとも永住するしないにかかわらず日本国籍を保持すると明確に答えた人が全体の13.5%であるか、日本へ帰国もしくは他国へ転住する意志のある者を除いて考えると、カナダに永住してもよいと考える人の大半は日本国籍にそれ程執着していないということだろうか？

4. カナダは期待していたとおりでしたか。

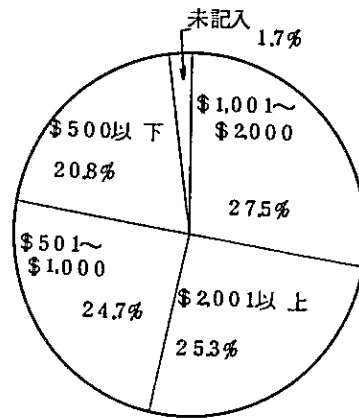
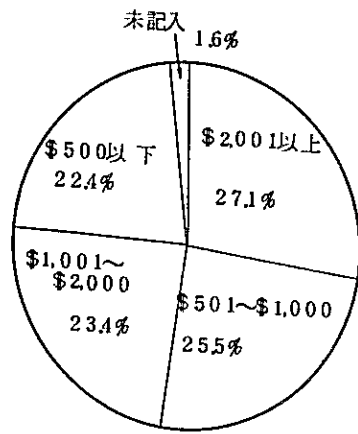


	農林漁業従事者	事務系従事者	専門技術系職業	特殊技能者など	サービス業	その他	未記入	計	農林漁業従事者	事務系従事者	専門技術系職業	特殊技能者など	サービス業	その他	未記入	計	総計
A予想以上		2	6	2	1	3		14 (89)							2	2 (59)	16 (83)
B予想どおり		10	44	8	3	16		81 (513)		7	4	2	3	9	25 (735)	106 (552)	
C予想以下	2	5	25	8	5	3	4	52 (329)		4				2	6 (177)	58 (302)	
未記入		2	7	2				11 (69)		1					1 (29)	12 (63)	
計	2 (13)	19 (120)	82 (519)	20 (127)	9 (57)	22 (139)	4 (25)	158 (1000)		12 (353)	1 (118)	2 (59)	3 (88)	13 (362)	34 (1000)	192 (1000)	

55.2%の人が期待していた通りのカナダであったと答えた。

とくに、女性がほとんどの職業分野にわたり、「予想通り」と答えているのは、本表に見るかぎりでは女性の方が、カナダの事情をよく理解して移住したと思われる。

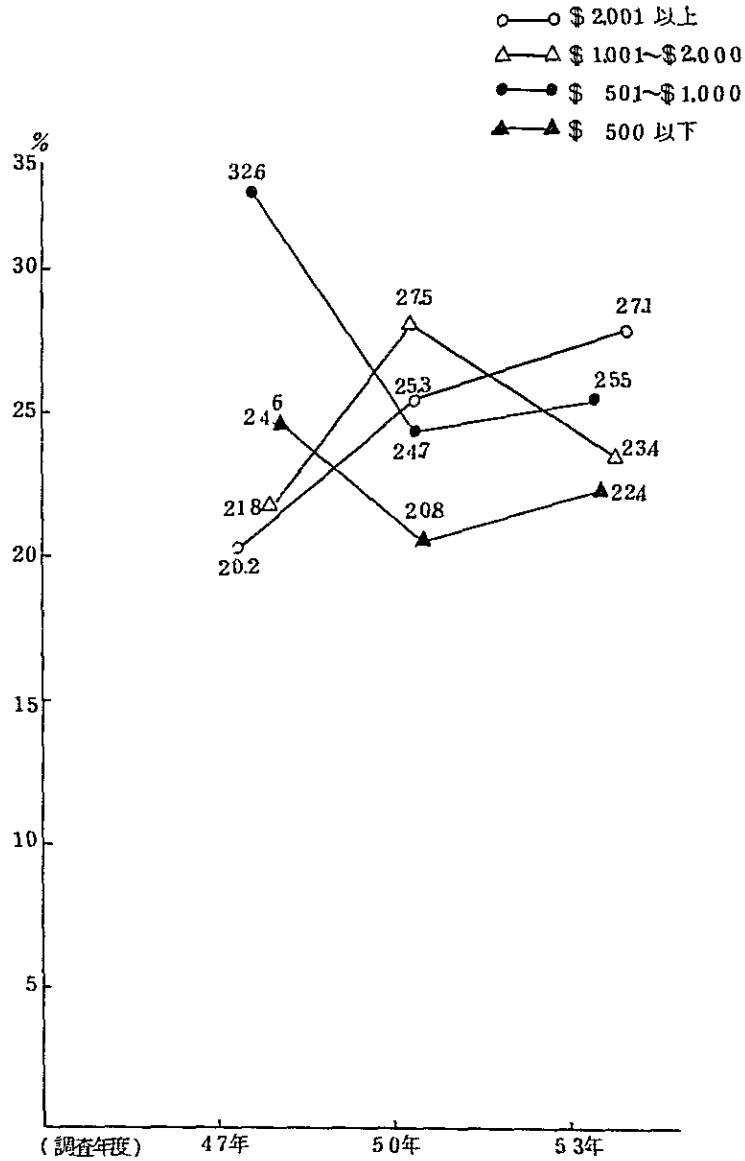
5. 渡航時の携行金はどの位でしたか。



(前回調査)

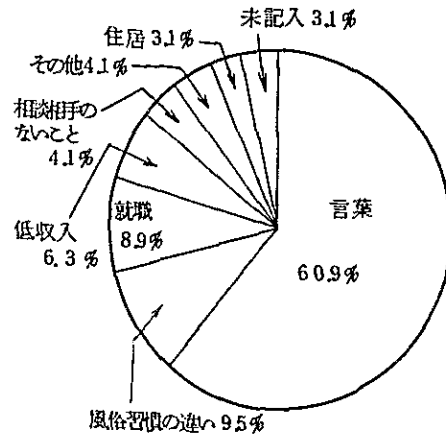
性別 区分 未既婚別	男				女				総計
	未	既	未記入	計	未	既	未記入	計	
A \$500以下	27	5		32 (203)	10	1		11 (324)	43 (224)
B \$501~1000	30	10		40 (253)	4			9 (265)	49 (255)
C \$1,001~2000	31	8	1	40 (253)	4	1		5 (147)	45 (234)
D \$2,001以上	13	30	1	44 (278)	4	4		8 (235)	52 (271)
未記入		2		2 (13)		1		1 (29)	3 (16)
合計	101 (639)	55 (348)	2 (13)	158 (1000)	27 (794)	7 (206)		34 (1000)	192 (1000)

○ 調査時別渡航時の携行金



全体でみると \$ 1,000 以上の携行金のある人が前回とほぼ同じように半数以上いるが、前回調査に比べて \$ 2,000 以上携行金をもっていく人が、やや増加していることが伺える。

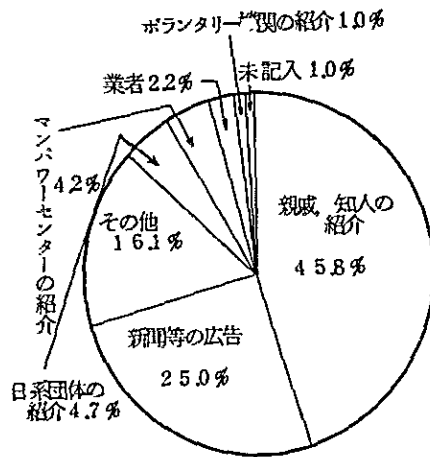
6. 入加当初最も困ったことは何ですか。



性別 区分	男								女					計	総計	
	農林漁業従事者	事務系従事者	専門技術系職業者	特殊技能者など	サ ー ビ ス	そ の 他	未 記 入	計	農林漁業従事者	事務系従事者	専門技術系職業者	特殊技能者など	サ ー ビ ス			そ の 他
A. 住居	1	12	54	14	8	12	3	104 (65.8)		3		2	2	6	13 (3.82)	117 (60.9)
B. 風俗習慣の違い	1		7			2		10 (6.3)		2	3			3	8 (2.36)	18 (9.5)
C. 就職			7	2		2	1	12 (7.6)		3	1			1	5 (1.17)	17 (8.9)
D. 住居		2	2			1		5 (3.2)		1					1 (.29)	6 (3.1)
E. 相談相手がないこと		2	3			1		6 (3.8)		2					2 (.59)	8 (4.1)
F. 低収入		1	4	1	1	2		9 (5.7)		1				2	3 (.89)	12 (6.3)
G. その他		1	3	1		2		7 (4.4)						1	1 (.29)	8 (4.1)
H. 未記入		1	2	2				5 (3.2)					1		1 (.29)	6 (3.1)
計	2 (1.3)	19 (12.0)	82 (51.9)	20 (12.7)	9 (5.7)	22 (13.9)	1 (.25)	158 (100.0)		12 (3.53)	4 (1.18)	2 (.59)	3 (.88)	13 (3.82)	34 (100.0)	192 (100.0)

移住者にとって言葉については60.9%が必要度を感じている。とくに専門技術系の男性の場合、仕事の内容からして、語学の必要性を要求されるため、入加当初「最も困ったこと」は、言葉であると答えた人は圧倒的に多い。

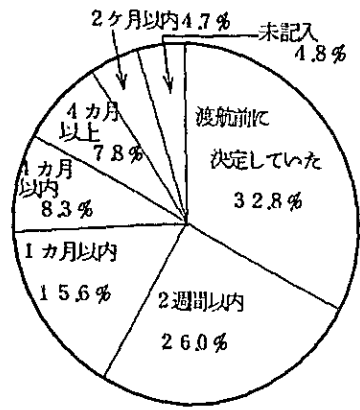
7. カナダでの最初の住居はどのようにして見つけられましたか。



区分	性別				性別				総計
	未結婚		既婚		未結婚		既婚		
	未	既	未記入	計	未	既	未記入	計	
A. 日系団体の紹介	1	7		88 (51)		1		1 (29)	9 (47)
B. 親戚知人の紹介	19	53		72 (456)	9	7		16 (471)	88 (458)
C. マンパワーセンターの紹介	1	6		7 (14)	1			1 (29)	8 (42)
D. ボランティア機関の紹介		2		2 (13)					2 (10)
E. 新聞等の広告	4	38		42 (266)	4	2		6 (176)	48 (250)
F. 業者		2		2 (13)	1	1		2 (59)	4 (22)
G. その他	7	17		24 (152)		7		7 (207)	31 (161)
未記入		1		1 (05)		1		1 (29)	2 (10)
計	32 (203)	126 (797)		158 (1000)	15 (441)	19 (559)		34 (1000)	192 (1000)

親戚、知人の紹介が、45.8%を示していることは、日本と文化生活を異にするカナダ社会にいて、カナダの社会状況や、環境、条件をよく知っている親戚、知人に、住居の相談をする方が移住者にとって、より信頼がおけ、より安心であるからであると考えられる。

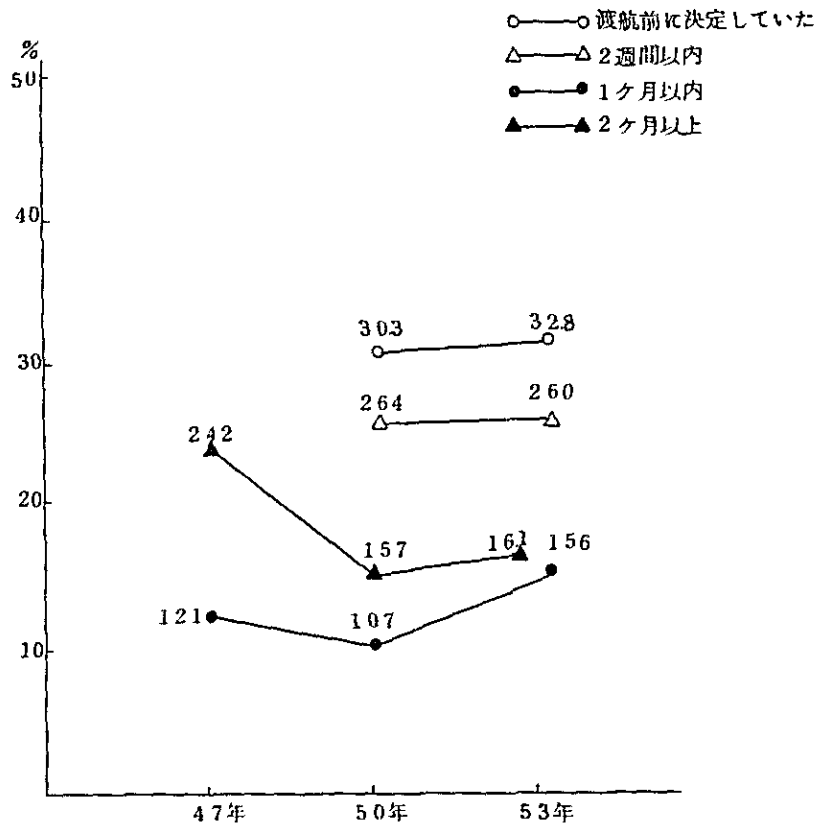
8. カナダで最初の仕事につくまでにどの位かかりましたか。



(前回調査)

区分	男								女								計
	農林漁業従事者	事務系従事者	専門技術系職業者	特殊技能者など	その他	未記入	計	農林漁業従事者	事務系従事者	専門技術系職業者	特殊技能者など	その他	計				
A 渡航前に決定していた	1	9	23	7	3	12	2	57	2	1			3	6	63		
B 2週間以内		5	32	1	1	3		41	3			1	2	6	50		
C 1ヶ月以内		2	9	1	3	5		23	4	1			2	7	30		
D 2ヶ月以内			5	1		1		7			2			2	9		
E 4ヶ月以内	1	2	7	4				14	1			1		2	16		
F 4ヶ月以上		1	1	3		1	1	10	2	1			2	5	15		
未記入			2				1	3		1		1	4	6	9		
計	2	16	82	20	9	22	4	158	12	4	2	3	13	34	192		
	(13)	(120)	(519)	(127)	(57)	(139)	(25)	(100.0)	(353)	(118)	(59)	(88)	(382)	(100.0)	(100.0)		

○ 入加時・就職先決定所要期間推移表

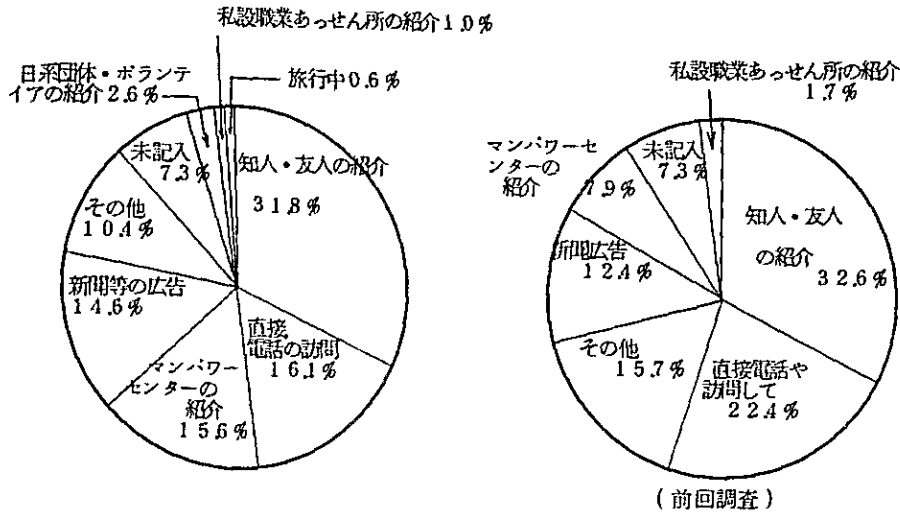


(注) 47年の「渡航前に決定していた」と「2週間以内」はデータ不足のため未記入。

入加前に就職先が決定していた移住者が前回に比べ多少であるが多くなっていることは、求人結合率が高まっていることを推測できる。

しかしながら、カナダ国内で失業率が高まっていることから、2ヶ月以上要した者が、16.1%と比較的多いことも十分、移住するに際し、知っておく必要がある。

9. カナダでの最初の仕事はどのようにして見つけれられましたか。

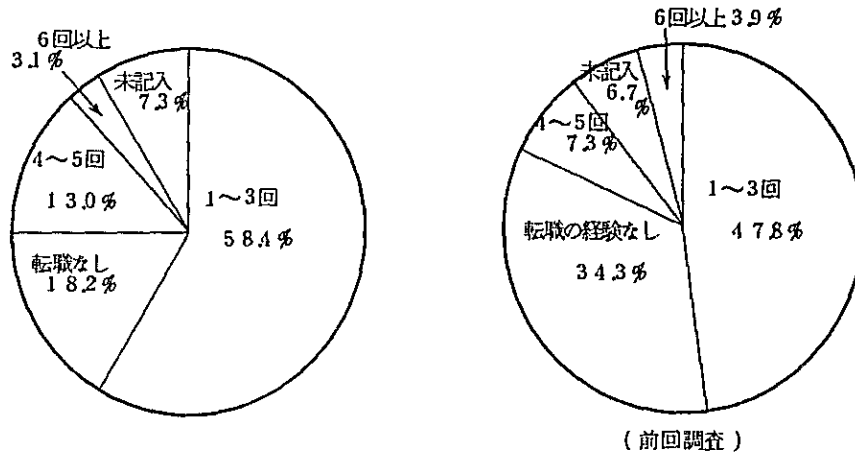


性別 職業別 区分	職業別													計	総計		
	農林漁業従事者	事務系従事者	専門技術系職吏	特殊技能者など	マニピュラ	その他	未記入	計	農林漁業従事者	事務系従事者	専門技術系職吏	特殊技能者など	マニピュラ			その他	未記入
A. 知人・友人の紹介		3	26	4	4	13	1	51		6				4		10	61
B. 日米団体・ボランティアの紹介		2		2				5									5
C. 新聞等の広告	1	4	11	1	1	2		20		3	2	2	1			8	28
D. 直接でんわや訪問		6	10	6		1	2	25		1	2		1	2		6	31
E. マンパワーセンターの紹介		1	20	1	2	3		27		1				2		3	30
F. 私設職業あっせん所の紹介			1					1						1		1	2
G. 旅行中						1		1									1
その他	1	2	9	4	2	1		19						1		1	20
未記入		1	5	2		1		9		1			1	3		5	13
計	2	19	82	20	9	22	4	158		12	4	2	3	13		34	192
	(13)	(12)	(51)	(12)	(5)	(13)	(2)	(100)		(35)	(11)	(5)	(8)	(38)		(100)	(100)

前回の調査（昭和50年）の回答も今回も知人、友人の紹介で就職先を見つける人が多い。

このことは、第7表で設問した事項に、住居を見つける際、知人、友人の紹介が多かったように、日本と社会制度の異なる環境では、頼りがいのある人を通じて就職先を見つけることは一般的であるといえよう。

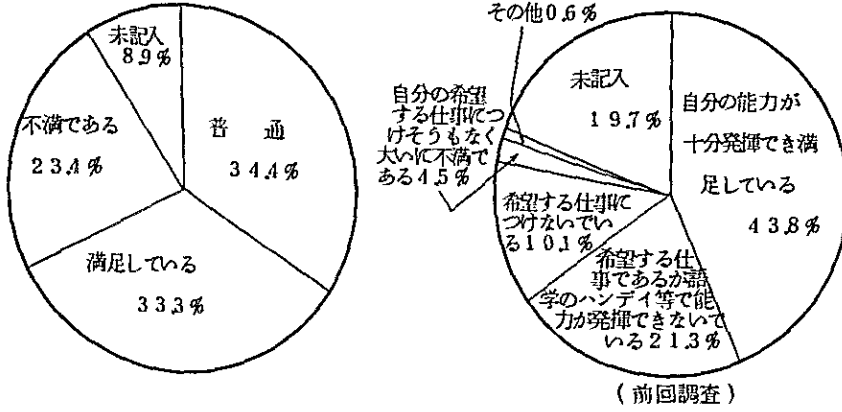
10. カナダでの転職状況をお知らせ下さい。



性別 在加年数 区分	男							女							総計
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	
転職なし	12	6	5	4	1		28 (177)	3	3	1				7 (206)	35 (182)
1～3回	52	16	24	2			94 (595)	12	2		4			18 (529)	112 (584)
4～5回	16	1	5				22 (139)	2		1				3 (88)	25 (130)
6回以上	3	2			1		6 (38)								6 (31)
未記入	2	2	2	2			8 (51)	4	2					6 (177)	14 (73)
合計	85	27	36	8	2		158 (1000)	21	7	2	4			34 (1000)	192 (1000)

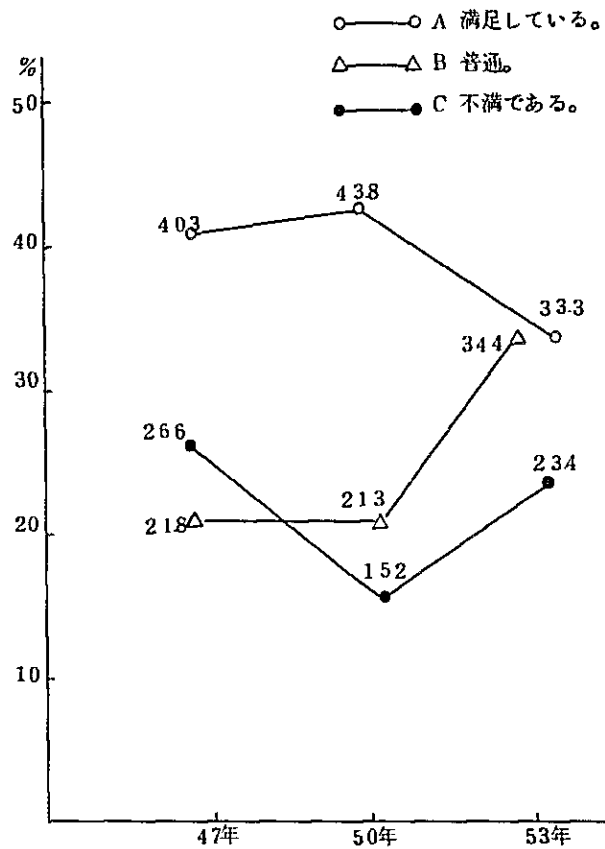
転職状況として、1～3回の転職が60%と近くを占めているが、新参者としては定職につくまでは若干の転職もいたし方ないということであろうか。その意味では転職することもなくやれるということは、幸運なことかも知れない。この調査結果だけからすれば女性の方が男性に比し転職回数は少ない。

11. 現在の仕事に満足していますか。



区分	性別		男										女					総計
	職種		農林漁業従事者	事務系従事者	専門技術系職業	特殊技能者など	その他	その他	未記入	計	農林漁業従事者	事務系従事者	専門技術系職業	特殊技能者など	その他	未記入	計	
A	満足している			7	31	9	2	6		57		3			1	3	7	64
B	普通		2	11	29	4	4	8	2	60		3	1		1	1	6	66
C	不満である			1	20	6	3	4	1	35		6	3	1			10	45
D	未記入				2	1		2	1	6				1	1	9	11	17
計			2	14	42	20	9	22	4	158		12	4	2	3	13	34	192
			(13)	(120)	(519)	(127)	(57)	(139)	(25)	(100.0)		(353)	(118)	(59)	(88)	(182)	(100.0)	(100.0)

○ 調査時別仕事に対する満足度



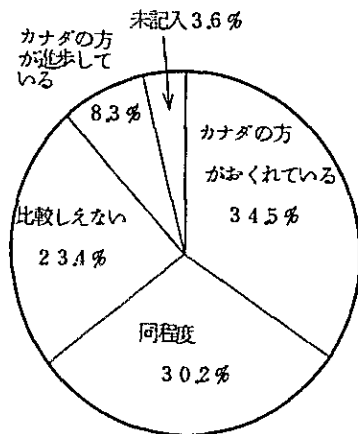
今回の調査では、回答をスッキリした形で、㊶満足 ㊷普通 ㊸不満にした。前回（昭和50年）のアンケートとは若干の違いがあるのでその内容比較は、出来にくいですが、意味するところを見ると、まとまるものもあるので前回のカテゴリーを一応次のようにしてみた。

今回調査回答		前回調査回答
A	・満足している	・自分の能力が十分発揮でき満足している
B	・普通	・希望する仕事であるが語学のハンディ等で能力が発揮できていない。
C	・不満である	・希望する仕事につけなしていない ・自分の希望する仕事につけそうもなく大いに不満である ・その他

以上のカテゴリーに大別すると、仕事に対する満足度は、「普通である」と答えている人が増えている。

一方、「満足している」人が減り、「不満である」人が増えているのは、カナダの経済不況を反映しているからか、仕事等の状況が一部では厳しくなっていると思われる。

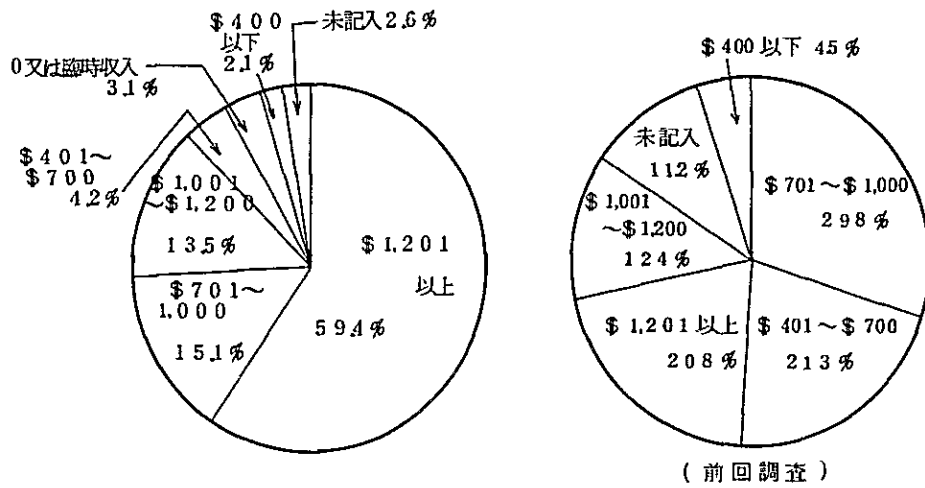
12. 貴方の仕事の分野で日本と比較するとどうですか。



性別 職種 区分	男								女								総計
	農林漁業従事者	事務系従事者	専門技術系職業	特殊技能者など	その他	未記入	計	農林漁業従事者	事務系従事者	専門技術系職業	特殊技能者など	サービス業	その他	未記入	計		
A カナダの方が進んでいる		1	5	4	1	1	13 (82)		1			1	1		3 (88)	16 (83)	
B 同程度		7	25	4	1	7	44 (278)		6	2	2	1	3		14 (412)	58 (302)	
C おいている	1	4	35	7	5	9	62 (392)		1	2			1		4 (117)	66 (345)	
D 比較しない	1	5	16	5	2	5	36 (229)		1				5		9 (265)	45 (234)	
E 未記入		2	1				3 (19)					1	1		4 (118)	7 (36)	
合計	2 (13)	19 (129)	82 (519)	20 (127)	9 (57)	22 (139)	158 (1000)		12 (353)	4 (118)	2 (59)	3 (88)	13 (382)		34 (1000)	192 (1000)	

一般的に日本の方が、技術(仕事)がすぐれているという印象を受けるが、「比較しない」と答えた人が23.4%もあり、一概に傾向を述べることはできない。

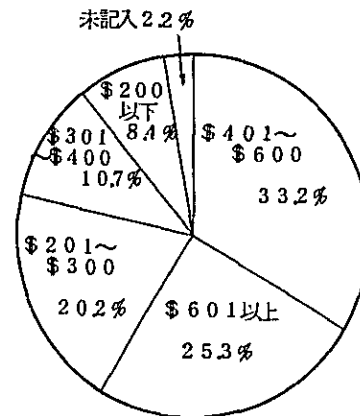
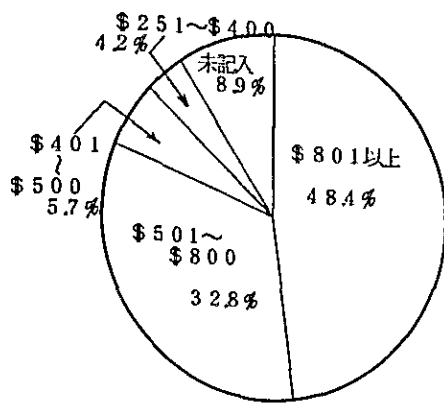
13. 現在の収入は月額にしてどの位ですか。



収入区分	男							女							計	
	農林漁業従事者	労働者	専門技術者	特殊技能者	その他	未記入	計	農林漁業従事者	労働者	専門技術者	特殊技能者	その他	未記入	計		
A. 0又は臨時収入				1	2	1	4				1		1	2	6	
B. \$400以下							(25)					1	3	4	4	
C. \$401~\$700				1	1	1	3	3					2	5	8	
D. \$701~\$1,000	1	2	7	3	1	6	21	8						8	29	
E. \$1,001~\$1,200	1	3	11	2	1	5	23	1	2				3	26	26	
F. \$1,201以上	14	64	13	4	10	2	107		2	1	1	3	7	114	114	
未記入							(67.7)					1	4	5	5	
計	2	19	82	20	9	22	158	12	4	2	3	13	31	192	192	
							(100.0)							31	(100.0)	(100.0)

カナダ全体の給与レベルの資料がないため移住者の給与がカナダで、どの程度のランクなのかが不明であるが、インフレ、カナダドルの下落などから考えれば、家族がある場合1,000ドル以上の収入がなければ苦しいだろう。今回の調査でも1,200ドル以上が60%近くとなっているが、前回調査では20.8%であったが、これはインフレ、カナダドル下落などを考え合せると決して、移住者の給与レベルが、著しく上昇したと考えるのは早計であろう。

14. 現在の1ヶ月の生活費はどの位ですか。

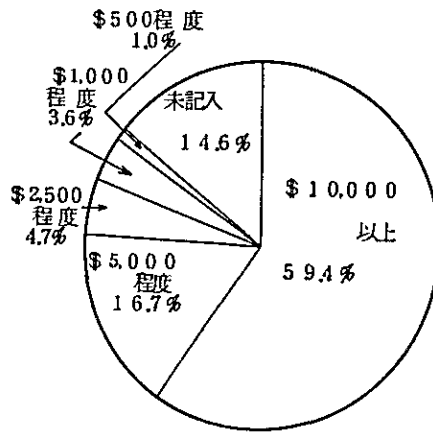


(前回調査)

性別 未既婚別 区分	男			女			総計	未既婚別		
	未	既	計	未	既	計		未婚	既婚	計
A										
\$250以下										
\$251~ 400	4	1	5 (3.2)	3		3 (8.8)	8 (4.2)	7	1	8 (4.2)
\$401~ 500	2	4	6 (3.8)	3	2	5 (14.7)	11 (5.7)	5	6	11 (5.7)
\$501~ 800	18	32	50 (31.6)	7	6	13 (38.3)	63 (32.8)	25	38	63 (32.8)
\$801 以上	7	80	87 (5.1)	1	5	6 (17.6)	93 (48.4)	8	85	93 (48.4)
未記入	1	9	10 (6.3)	1	6	7 (20.6)	17 (8.9)	2	15	17 (8.9)
計	32	126	158 (100.0)	15	19	34 (100.0)	192 (100.1)	47 (24.5)	145 (75.5)	192 (100)

設問13でも見た通り給与水準が上っていることは、こゝでみる通りの1ヶ月の生活費の上昇が大きな理由である。最近の物価上昇には、カナダ国民が頭を痛めていることだろう。経験的にみて日本人移住者の生活はカナダ社会における中の中から中の下というところであるが、そのための生活費はやはり家族のある場合800ドル前後もしくは、それ以上が必要だということである。

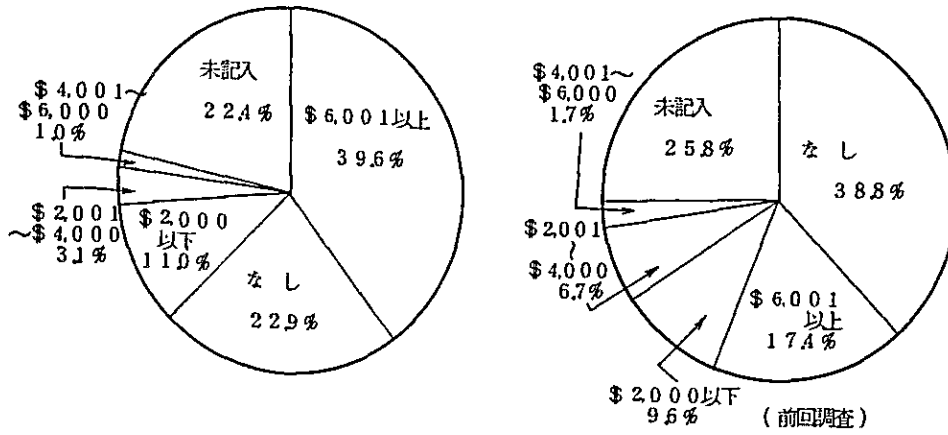
15. 現在の資産状況をお知らせ下さい。



区分	男							女							総計
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	
\$ 500程度				1			1 (06)	1						1 (29)	2 (10)
\$ 1,000程度	1	2	3				6 (38)	1						1 (29)	7 (36)
\$ 2,500程度	2	1	1	2			6 (38)			1	2			3 (88)	9 (47)
\$ 5,000程度	8	6	9	3			26 (164)	3	2	1				6 (177)	32 (167)
\$ 10,000以上	62	16	17	2	2		99 (627)	10	3		2			15 (442)	114 (594)
未記入	12	2	6				20 (127)	7	1					8 (235)	28 (146)
計	85	27	36	8	2		158 (1000)	21	7	2	4			34 (1000)	192 (1000)

資産状況で\$10,000以上を持っている人が、過半数以上の59.4%もいることは、安定した生活を送っている人が多いと考えられる。やはり、在加年数が、長くなればなるほど、着実に資産を増加させている傾向にあるといえる。

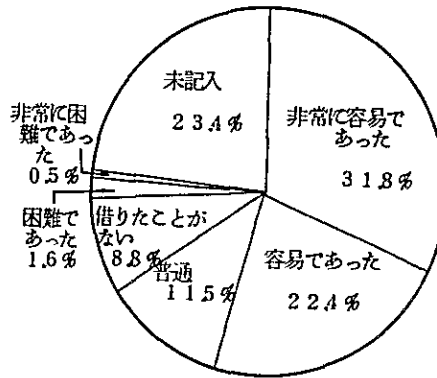
16. 現在の負債状況をお知らせ下さい。



性別 在加年数 区分	男							女							総計
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	
なし	16	10	5	2			33 (209)	4	4	1	2			11 (324)	44 (229)
\$2,000以下	6	1	5	1			16 (101)	4	1					5 (147)	21 (110)
\$2,001~\$4,000			5	1			6 (38)								6 (31)
\$4,001~\$6,000	1				1		2 (13)								2 (10)
\$6,001以上	52	9	11		1		73 (462)	3						3 (88)	76 (396)
未記入	10	1	10	1			28 (177)	10	2	1	2			15 (441)	43 (224)
計	85	27	36	8	2		158 (1000)	21	7	2	4			34 (1000)	192 (1000)

立ち上がった、質問のため未記入者が22.4%もあり、分析が正確を欠くことにもなるが、負債なしが、前回調査より比率が低下していることや、\$6,001以上の負債が増加していることを知っておく必要がある。ただ、\$6,001以上の負債とは、持家者がほとんどであることから、家屋購入のためのものと思われる。従って、在加年数が長くなるにつれて、負債者は増加する傾向にあるといえよう。

17. 借入は容易でしたか。

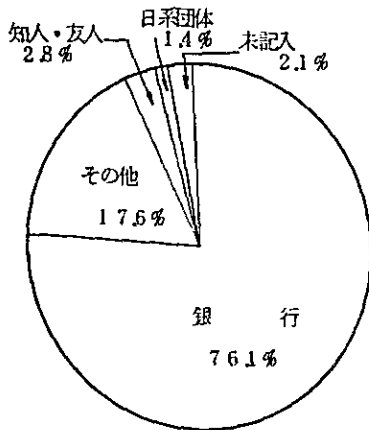


性別 在加年数 区分	男							女							総計
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	
A. 非常に容易であった	34	7	9	1	1		52 (339)	5	3		1			9 (265)	61 (318)
B. 容易であった	22	9	8	1			40 (253)	2			1			3 (88)	43 (224)
C. 普通	13	1	6	1	1		22 (139)								22 (115)
D. 困難であった		1	1				2 (13)	1						1 (29)	3 (16)
E. 非常に困難であった	1						1 (06)								1 (05)
F. 借りたことがない	4	4	4	2			14 (89)	2			1			3 (88)	17 (88)
未記入	11	5	8	3			27 (171)	11	4	2	1			18 (530)	45 (234)
計	85	27	36	8	2		158 (1000)	21	7	2	4			34 (1000)	192 (1000)

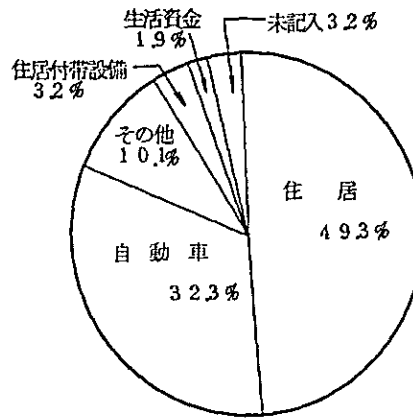
先の負債状況同様未記入が多くこの結果から傾向を出すことは困難であるが、借入を困難（非常に困難も含め）と答えたものがごく少なく、カナダにおいては、次の設問とも関連して、銀行の融資はそれ程難しくないようである。

18. 借入はどのような内容でしたか。

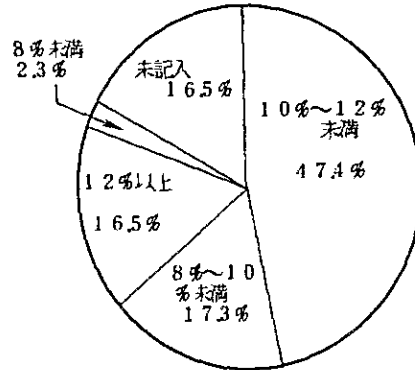
(1) 借入先はどこですか。



(2) 資金使途は何でしたか。



(3) 借入利息はどうでしたか。



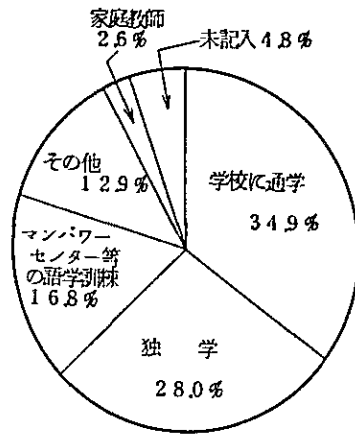
区分	性別		男					女					総計			
	在加年数		7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上		1年以上	1年未満	未記入
(1)借入先はどこですか																
A 銀行	56	17	17	3	2		95(742)	8	3		2				13(929)	108(761)
B 日系団体	1		1				2(15)									2(14)
C 知人・友人	2		2				4(31)									4(28)
D その他	16	1	7				24(188)	1							1(71)	25(176)
未記入	3						3(23)									3(21)
計	78	18	27	3	2		128(100.0)	9	3		2				14(100.0)	142(100.0)
(2)資金使途は何でしたか																
A 住居	53	9	11				73(514)	3	1		1				5(31.2)	78(492)
B 住居付帯設備	3				1		4(28)	1							1(6.3)	5(32)
C 自動車	19	9	12	3	1		44(310)	3	2		2				7(43.7)	51(323)
D 生活資金			2				2(14)	1							1(6.3)	3(19)
E 医療費																
F その他	11	2	1				14(99)	2							2(12.5)	16(101)
未記入	5						5(3.5)									5(32)
計	91	10	26	3	2		142(100.0)	10	3		3				16(100.0)	158(100.0)
(3)借入利息はどうでしたか																
A 利息																
8%未満	1		1				2(1.7)	1							1(7.7)	3(2.3)
8~10%未満	18	1	3				22(18.3)	1							1(7.7)	23(17.3)
10~12% "	33	13	11		1		58(48.3)	3	2						5(38.4)	63(47.4)
12%以上	9	3	6	1	1		20(16.7)	1			1				2(15.4)	22(16.5)
未記入	12	1	3	2			18(15.0)	2	1		1				4(30.8)	22(16.5)
計	73	18	24	3	2		120(100.0)	8	3		2				13(100.0)	133(100.0)

設問17においてA~Eと答えた130人についての集計であり、重複回答もある。

借入先としては銀行が3/4を占め、借入目的は住宅および車が80%強ということになる。

住宅の借入については、やはり在加年数が長くなる程、多くなるようだ。

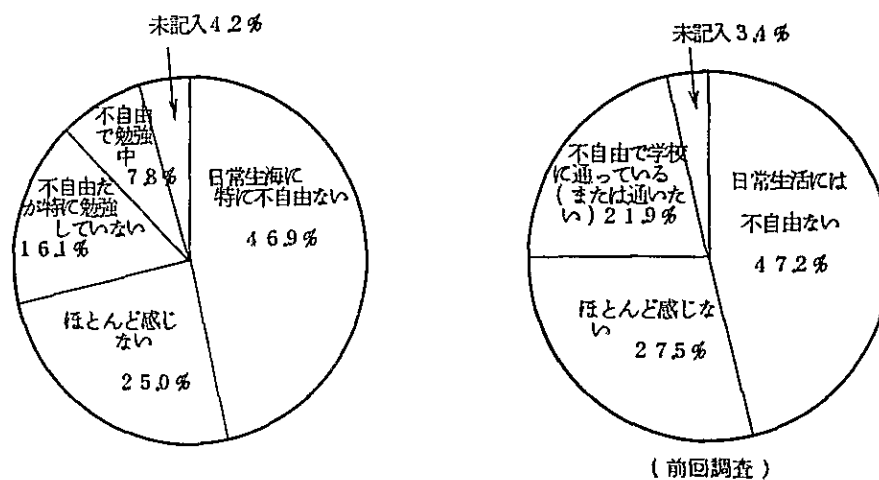
19. カナダでの言語習熟方法はどこでしたか。



区分	性別							計	総計						
	男									女					
在加年数	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	
A マンパワーセンター等の語学訓練	12	9	8	2			31 (162)	5	2	1				8 (200)	39 (168)
B 学校に通学	39	2	15	1			67 (349)	7	5	1	1			14 (350)	81 (349)
C 家庭教師	2		3				5 (26)	1						1 (25)	6 (26)
D 独学	32	11	9	6			58 (302)	4	2	1				7 (175)	65 (280)
E その他	10	2	6	1	1		20 (104)	5			5			10 (250)	30 (129)
未記入	1	2	1		1		11 (57)								11 (48)
計	99	36	45	10	2		192 (1000)	22	9	3	6			40 (1000)	232 (1000)

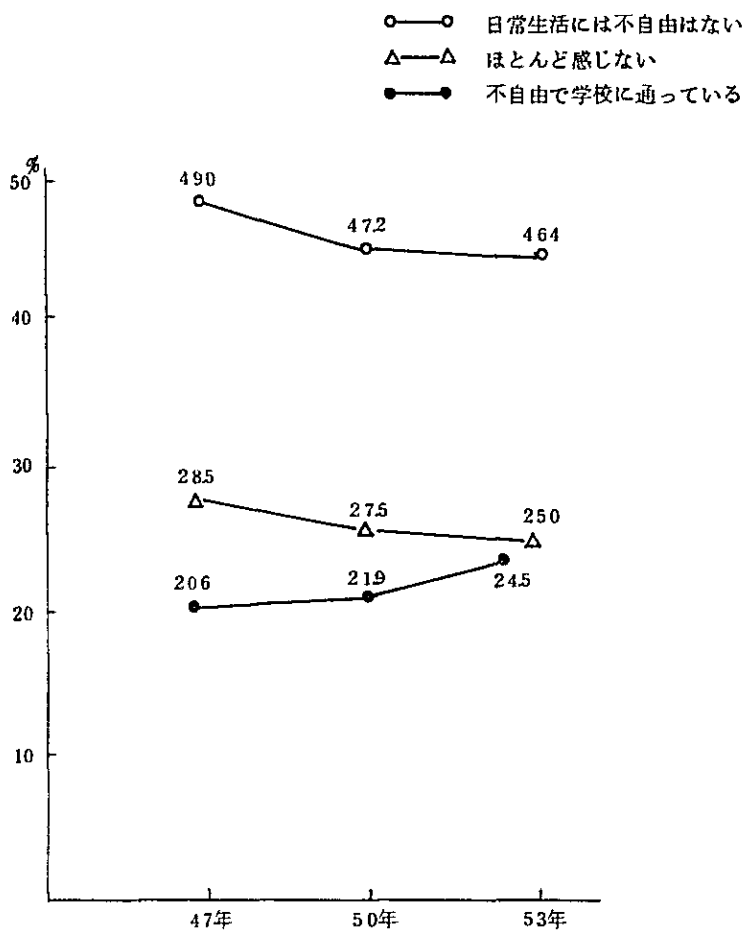
語学の習熟方法については、語学学校に通う人が、比較的多く34.9%いる。また、連邦政府の出先機関の一つであるマンパワーセンター等の語学講座では20.8%の人がいる。このことは、この語学講座は、勤労者の夜間コースや主婦のための昼のクラスを設けたりして、非常に便利であると共に、普通、市民講座と同時に行われ、カナダの習慣や、歴史、地理、政治などについても授業を受けられるので、新しい移住者にとっては、有益なものである。

20. 英語の不自由は感じますか。



性別 在加年数 区分	男						女						総計		
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満		未記入	計
A ほとんど感じない	28	3	5		1		37 (234)	7	1		3			11 (324)	48 (250)
B 日常生活に特に不自由ない	40	14	14	2			70 (443)	14	3	2	1			20 (588)	90 (469)
C 不自由で勉強中	2	5	6	1			14 (89)		1					1 (29)	15 (78)
D 不自由だが特に勉強していない	14	4	7	5	1		31 (196)								31 (161)
未記入	1	1	4				6 (38)		2					2 (59)	8 (42)
計	85	27	36	8	2		158 (1000)	21	7	2	4			34 (1000)	192 (1000)

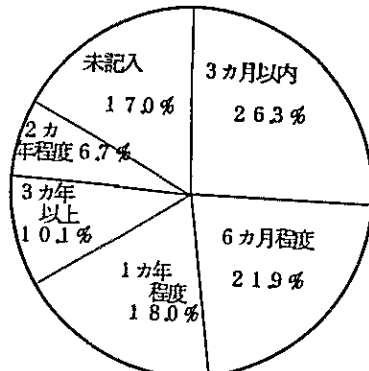
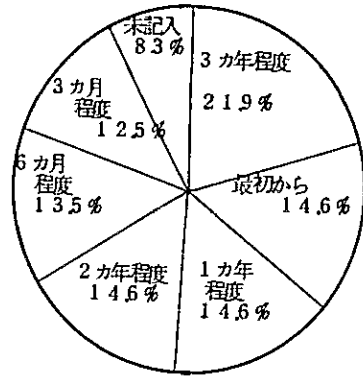
○ 調査時別英語の不自由度



前回の調査と比較するために、今回の調査の「不自由だが特に勉強していない」と「不自由で勉強中」の内容を「不自由で学校に通っている（通いたい）」の категорияに含めて、英語の不自由度をみた。

全体でみると、「日常生活に不自由を感じない人」は46.4%で、圧倒的に多いが、在加年数が長くなっても、「ほとんど感じない」との設問に低率を示すのは、語学をマスターすることの難しさを改めて、認識する必要がある。

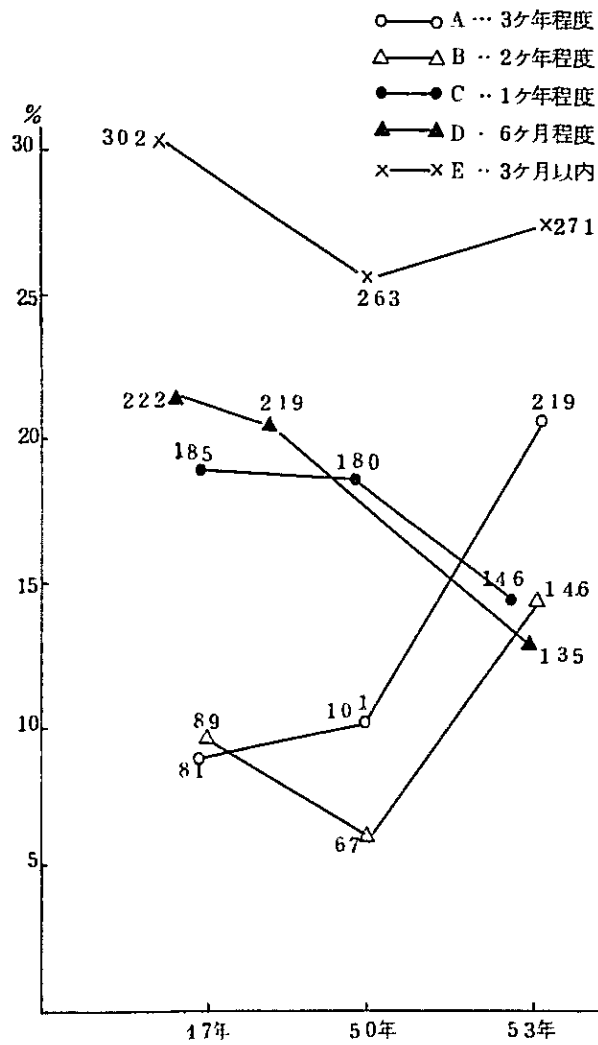
21. 職場等で英語に慣れるまでの位かかりましたか。



(前回調査)

性別 職種 区分	男								女								総 計
	農 林 漁 業 従 事 者	事 務 系 従 事 者	専 門 技 術 系 職 業	特 殊 技 能 者 な ど	サ ー ビ ス 業	そ の 他	未 記 入	計	農 林 漁 業 従 事 者	事 務 系 従 事 者	専 門 技 術 系 職 業	特 殊 技 能 者 な ど	サ ー ビ ス 業	そ の 他	未 記 入	計	
A 最初から		3	10	5			2	20 (127)		5				3		8 (235)	28 (146)
B 3ヶ月程度		3	6	2		3		14 (89)		3	1	1	1	4		0 (294)	24 (125)
C 6ヶ月程度		4	11	3	2	1		21 (133)			2		1	2		5 (147)	26 (135)
D 1カ年程度	1	3	13	2	3	4		26 (165)			1	1				2 (59)	28 (146)
E 2カ年程度	1	4	9	5	2	5		26 (165)		2						2 (59)	28 (146)
F 3カ年程度		1	29	2	2	6	1	41 (258)						1		1 (29)	42 (219)
未記入		1	4	1		3	1	10 (63)		2			1	3		6 (177)	16 (83)
計	2	19	82	20	9	22	4	158 (1000)		12	4	2	3	13		34 (1000)	192 (1000)

○ 調査時別英語の習熟来度



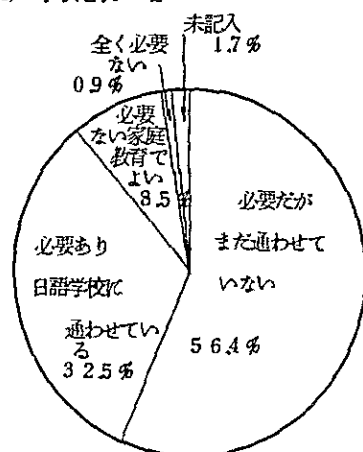
今回の調査の設問内容と前回（昭和50年）の内容とは、若干異なるので、比較を容易にするために、次のようにした。

	今回調査回答	前回調査回答
A	・ 3ヶ年 程 度	・ 3ヶ年 程 度
B	・ 2ヶ年 程 度	・ 2ヶ年 程 度
C	・ 1ヶ年 程 度	・ 1ヶ年 程 度
D	・ 6ヶ月 程 度	・ 6ヶ月 程 度
E	・ 3ヶ月 程 度 ・ 最初から	・ 3ヶ月 以 内

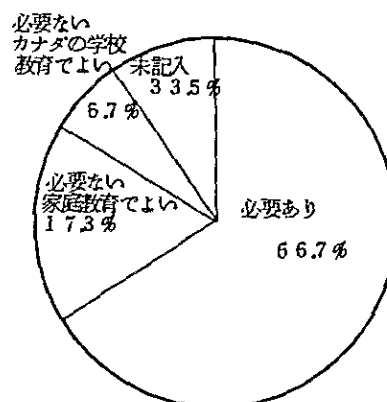
3ヶ月以内に英語を習熟する人が27.1%おり、トップである。とくに女性の事務系職種に高率を示すのは、これらの職業には語学力が特に必要であるところから、日本国内で相当マスターして来たものと思われる。

22. 子供の日本語教育はどう考えますか。

(1) 子供を持つ者



(2) 独身又は夫婦のみの者



子供の日本語教育については、子供を持つ者の88.9%、子供を持たない者の66.7%と大半がその必要性を認めているが、子供のない者の中に必要なしとする者が多いのは予想されることである。又、女性の方に必要性ありとする率は高いようである。

前回調査では、設問の内容が異っていたが日本語教育の必要性を認める者は全体の47.2%であった。

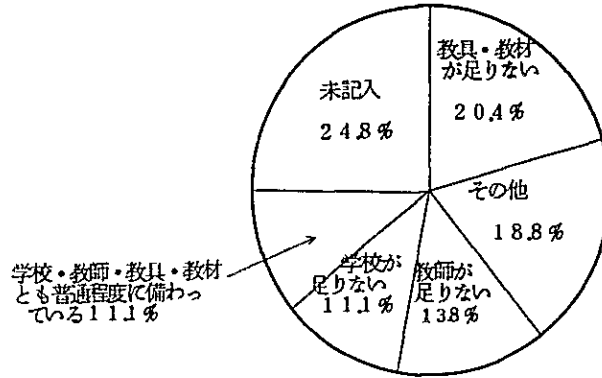
(1)

性別 在加年数 区分	男						女						総計		
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満		未記入	計
A 必要あり日語学校に通わせている	22	3	7	1	1		34 (327)	3	1					4 (308)	38 (325)
B 必要だがまだ通わせていない	35	7	13	2			57 (548)	8	1					9 (692)	66 (564)
C 必要ない家庭教育でよい	5	1	3	1			10 (96)								10 (85)
D 全く必要ない			1				1 (10)								1 (09)
未記入	2						2 (19)								2 (17)
計	64	11	24	4	1		104 (100.0)	11	2					13 (100.0)	117 (100.0)

(2)

性別 在加年数 区分	男						女						総計		
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満		未記入	計
A 必要あり	15	10	6	3	1		35 (648)	8	3	1	3			15 (714)	50 (667)
B 必要ない家庭教育でよい	2	3	3	1			9 (167)	1	1	1	1			4 (190)	13 (173)
C 必要ないカナダの学校教育でよい	3	1					4 (74)	1						1 (48)	5 (67)
未記入	1	2	3				6 (111)	1						1 (48)	7 (93)
計	21	16	12	4	1		54 (100.1)	10	5	2	4			21 (100.0)	75 (100.0)

23. 子供の学校による日語教育

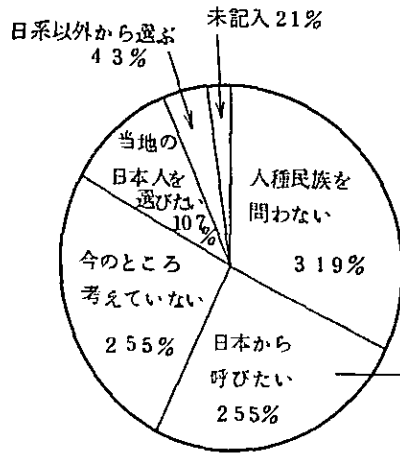


区分	性別		男						女						総計
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	
A 学校・教師・教具・教材とも普通程度に備わっている	8	3	3	1			15 (99)	2	3					5 (167)	20 (111)
B 学校が足りない	10	2	3	3			18 (119)	1	1					2 (67)	20 (111)
C 教師が足りない	16	3	2	2			23 (152)	1	1					2 (67)	25 (138)
D 教具・教材が足りない	19	5	8	1			33 (219)	3	1					4 (133)	37 (204)
E その他	14	5	5		1		25 (166)	5	1		3			9 (300)	34 (188)
未記入	22	5	8	1	1		37 (245)	7		1				8 (266)	45 (248)
計	89	23	29	8	2		151 (1000)	19	7	1	3			30 (1000)	181 (1000)

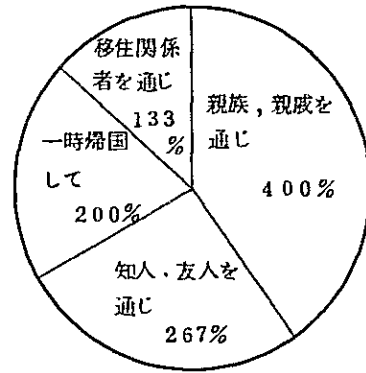
全体の中で、学校、教師、教具、教材が備わっているとした者は、11.1%のみで、全般的に日本語教育の施設等は不足しているといえるので移住希望者にとっては、カナダの定住先の実情を、よく知って渡航することが必要である。

24. 結婚相手についてどう考えますか。

未婚の方

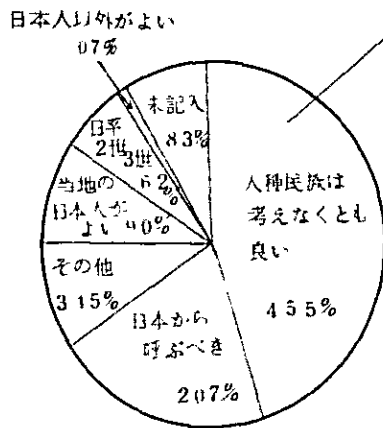


未婚の方で日本からと答えた方は結婚相手をどう探しますか。
(またはどう探しましたか)



	男	女	計
A 親族、親戚を通じ	5	1	6 (400)
B 知人、友人を通じ	4		4 (267)
C 移住関係者を通じ	2		2 (133)
D 一時帰国して	3		3 (200)
E その他			
計	14	1	15 (1000)

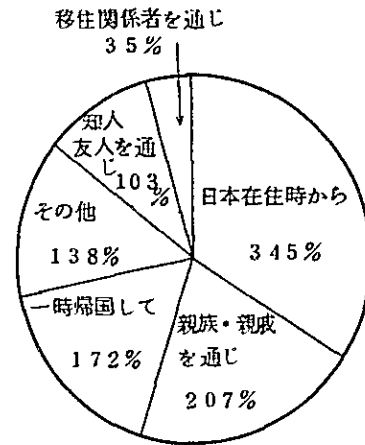
既婚の方 (日本人の結婚相手に対する考え方)



○人種、民族は考えなくとも良いと答えた人の
実際の配偶者

性別	男(55人)	女(11人)
配偶者		
日本人	43	3
日本人以外	10	7
未記入	2	1

既婚の方で日本から配偶者を呼ばれた方はどうでしたか。



区別	性別		計
	男	女	
A 親族，親戚を通じ	6 (214)		6 (207)
B 知人，友人を通じ	3 (107)		3 (103)
C 移住関係者を通じ	1 (36)		1 (35)
D 一時帰国して	5 (179)		5 (172)
E 日本在住時から	10 (357)		10 (345)
F その他	3 (107)	1 (1000)	4 (138)
計	28 (1000)	1 (1000)	29 (1000)

(未婚の方)

区分	性別		男						女						総計
	年齢		25以下	26~30	31~35	36以上	未記入	計	25以下	26~30	31~35	36以上	未記入	計	
	男	女													
A 日本から呼びたい	7	2	2	7	2	2	11 (344)	1	1	1			1 (67)	12 (255)	
B 当地の日本人を選びたい	1		1	1			2 (63)	1	1	1			3 (200)	5 (107)	
C 日系, 2世3世等 を選びたい															
D 日系以外から選ぶ		1	1				1 (31)				1		1 (67)	2 (43)	
E 人種民族を問わない	4	3	2	4	3	2	9 (281)	2	2		4		6 (400)	15 (319)	
F 今のところ考えていない	1	3	1	3	3	1	8 (250)	2	2		2		4 (267)	12 (255)	
未記入														1 (21)	
計	1	16	9	6	9	6	32 (1000)	6	6	1	8		15 (1000)	47 (1000)	

(日本人の結婚相手に対する考え方)
(既婚の方)

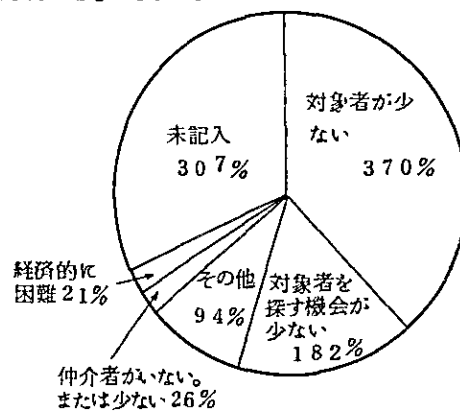
区分	性別 年齢	男					女					総計		
		25以下	26~30	31~35	36以上	未記入	計	25以下	26~30	31~35	36以上		未記入	計
A 日本から呼ぶべき		6	12	11		29 (230)		1				1 (53)	30 (207)	
B 当地の日本人が良い		1	3	8		12 (95)				1		1 (53)	13 (90)	
C 日系2世3世等が良い		3	1	3		7 (56)				1		2 (105)	9 (62)	
D 日系人以外が良い		1				1 (08)							1 (07)	
E 人種、民族は考えなくとも良い		4	18	33		55 (437)		2	4	4		11 (579)	66 (455)	
その他の			3	7		10 (79)				1	3	4 (210)	14 (96)	
未記入			6	6		12 (95)							12 (83)	
計		15	43	68		126 (100.0)		3	6	9		19 (100.0)	145 (100.0)	

結婚の相手についての考え方として「人種民族を問わない」という考え方が既婚者の方に多いのは興味あるところである。しかし、既婚者で「人種民族を問わない」と答えた男55人、女11人について、実際の配偶者を見てみると、男性では日本人（日本生れ）が多く女性では日本人以外（日系人を含む）が多くなっている。

一方、日系人以外が良いとする意見は既婚者では著しく少ない。

未婚者の内日本から配偶者を呼びたいとする者の多くは親戚、友人、知人の紹介を期待しているようだ。「一時帰国して」という者の数が20%と少ないが、人の紹介で交際し（文通）、結婚を決意すれば帰国してという者は多いと想像される。

25. 結婚問題で阻害要因は何だと思いますか。

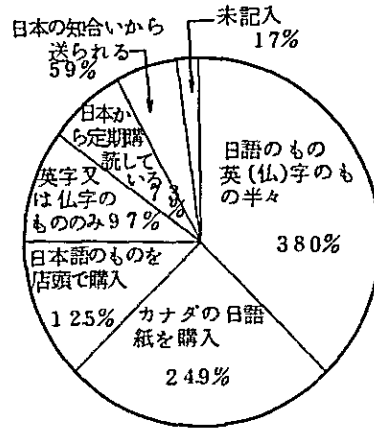


区分	男				女				総計
	未	既	未記入	計	未	既	未記入	計	
A 対象者が少ない	15	44		59 (373)	6	6		12 (353)	71 (370)
B 対象者を探す機会が少ない	7	23		30 (190)	4	1		5 (147)	35 (182)
C 仲介者がいないまたは少ない		5		5 (32)					5 (26)
D 経済的に困難	3	1		4 (25)					4 (21)
E その他	2	11		13 (82)	2	3		5 (147)	18 (94)
未記入	5	42		47 (298)	3	9		12 (353)	59 (307)
計	32	126		158 (1000)	15	19		34 (1000)	192 (1000)

対象者が少ないことが結婚の阻害要因のトップで37.0%。

一般的に語学力の不足のためか、カナダ社会の中にとけこむチャンスが少なく、人間関係が限られることにより、対象者を見つけにくいと思われる。

26. 新聞、雑誌は主として何をお読みですか。

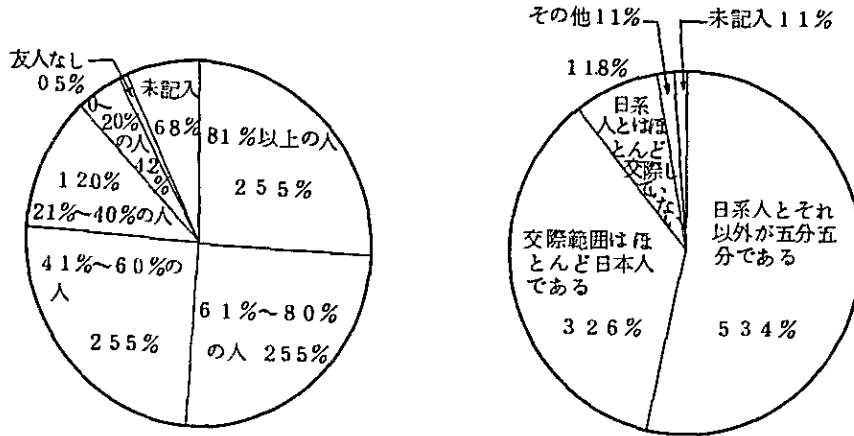


性別 在加年数 区分	男							女							総計
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	
A 日本から定期購読している	4	5	4	1			14 (58)	6			1			7 (52)	21 (73)
B 日本の知合いから送られる	10	4	1	1			16 (66)	1						1 (22)	17 (59)
C 日本語のものを店頭で購入	17	7	9	1			34 (140)	1	1					2 (43)	36 (125)
D カナダの日本語紙を購入	33	10	12	4			59 (243)	7	3	1	2			13 (283)	72 (249)
E 英字または仏字のもののみ	15	6	2				23 (95)	2	1	1	1			5 (109)	28 (97)
F 日本語のもの英(仏)字のもの半々	54	11	21	4	2		92 (378)	13	4		1			18 (391)	110 (380)
未記入	3		2				5 (20)								5 (17)
計	136	43	51	11	2		243 (1000)	30	9	2	5			46 (1000)	289 (1000)

重複回答あるがカナダの日本語新聞を読んでいる者が回答者192人中72人とかなりの数にのぼっている。日本語のものをまったく読んでいないとするものは28人と少なく大半の者がなんらかの方法で日本語の新聞、雑誌を読んでいることとなる。

27. カナダでの比較的親しい友人。

○日本人及び日系人の友人の割合



(前回調査)

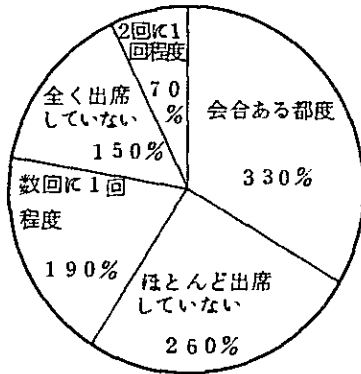
性別 日本人及び 日系人の 友人	男							女							総計
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	
81%以上	18	6	16	2	1		43 (272)	3	2		1			6 (177)	49 (255)
61%~80%	25	8	11	2	1		47 (298)	2						2 (59)	49 (255)
41%~60%	20	9	7	4			40 (253)	6	2	1				9 (265)	49 (255)
21%~40%	12	4					16 (101)	4	1	1	1			7 (206)	23 (120)
0~20%	3						3 (19)	3	1		1			5 (147)	8 (42)
友人なし											1			1 (29)	1 (05)
未記入	7		2				9 (57)	3	1					4 (117)	13 (68)
計	85	27	36	8	2		158 (1000)	21	7	2	4			34 (1000)	192 (1000)

設問が、友人の数を求めるものであったため、集計では友人に占める日系の割合を用いた。半数の人が日系人を中心とした交友関係を持ち、 $\frac{1}{3}$ の人が日系とそれ以外の友人が半々という結果となった。

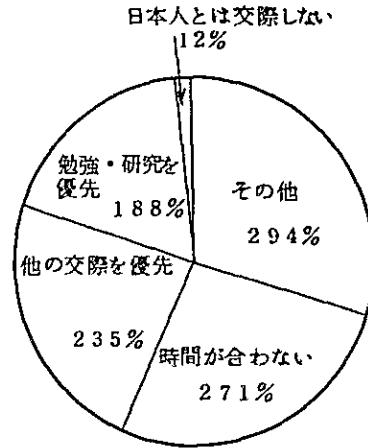
前回調査とは設問内容が異なるためストレートな比較は出来ないが日系人との交際が若干増えているといえるのではないだろうか。

28. 日系人団体組織に加入していますか。

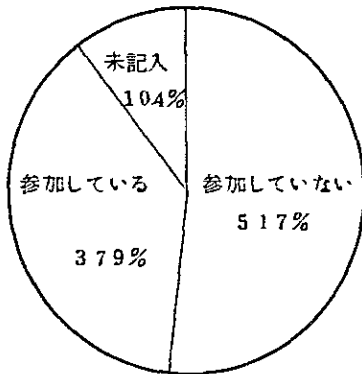
○加入している方
会合にはどの程度出席していますか



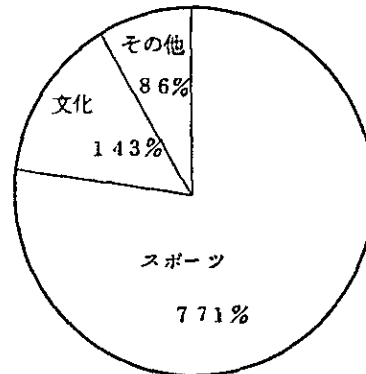
○加入していない方
不加入の理由は何ですか



○日系人団体組織に加入していない方
(1) 他のクラブ等のグループに参加していますか



(2) どのようなグループに参加しているか



◎日系人団体組織に加入していますか。

◎加入している (1) 会合にはどの程度出席していますか。

性別 在加年数 区分	男						女						計	総計
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入		
A 会合ある都度	15	2	10	1	1		29 (349)	3	1				4 (235)	33 (330)
B 2回に1回程度	5						5 (60)	2					2 (118)	7 (70)
C 数回に1回程度	6	6	3				15 (181)	2	1	1			4 (235)	19 (190)
D ほとんど出席していない	13	2	6				21 (253)	3	2				5 (294)	26 (260)
E 全く出席していない	7	3	1	2			13 (157)	1			1		2 (118)	15 (150)
計	46	13	20	3	1		83 (1000)	11	4	1	1		17 (1000)	100 (1000)

◎加入していない (1) 不加入の理由は何ですか

性別 在加年数 区分	男						女						計	総計
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入		
A 時間が合わない	7	3	6	2			18 (257)	4			1		5 (333)	23 (271)
B 勉強, 研究を優先	6	3	2	2			13 (186)		2		1		3 (200)	16 (188)
C 他の交際を優先	9	5	3				17 (243)		2	1			3 (200)	20 (235)
D 日本人とは交際しない									1				1 (67)	1 (12)
E その他	14	2	5		1		22 (314)	2			1		3 (200)	25 (294)
計	36	13	16	4	1		70 (1000)	6	5	1	3		15 (1000)	85 (1000)

◎加入していない (2) 他のクラブ等のグループに参加していますか。

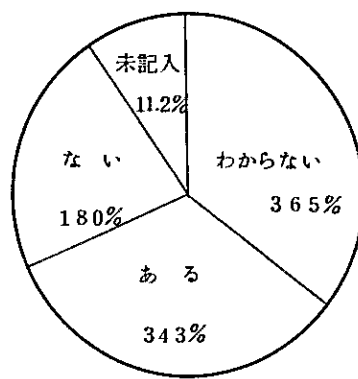
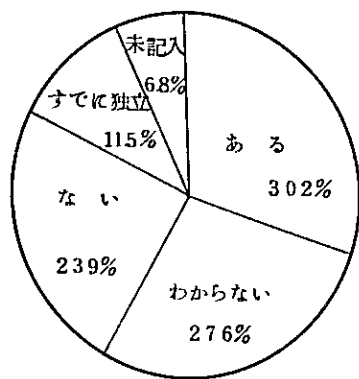
性別 在加年数 区分	男							女							総計
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	
A 参加している	15	5	6	2	2		30 (417)	1	1		1			3 (200)	33 (379)
B 参加していない	16	6	9	3			34 (472)	6	2	1	2			11 (733)	45 (517)
未 記 入	5	2	1				8 (111)	1						1 (67)	9 (104)
計	36	13	16	5	2		72 (1000)	8	3	1	3			15 (1000)	87 (1000)

◎他のクラブ等のグループに参加している

性別 在加年数 区分	男							女							総計
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	
A スポーツ	12	5	6	1	2		26 (839)		1					1 (250)	27 (770)
B 文 化	3			1	1		5 (161)								5 (143)
C そ の 他								1	1		1			3 (750)	3 (86)
未 記 入															
計	15	5	6	2	3		31 (1000)	1	2		1			4 (1000)	35 (1000)

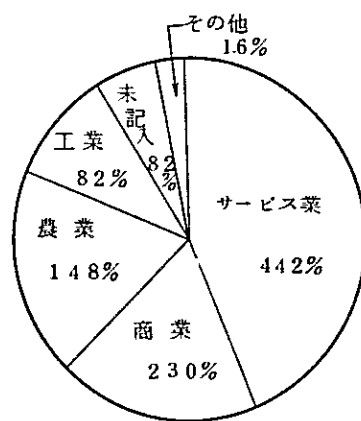
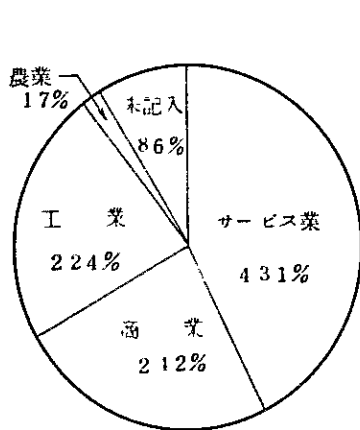
日系団体への加入状況を見ると「加入」と「未加入」がほぼ半々とみられる。これは移住者が集団的に居住していないことから考えれば日系団体加入状況は良好といえる程の結果ではないか。たゞ加入者についても積極的に活動に参加している者は加入者の1/3程度という結果になっている。又加入しない理由としてはやはり個人主義的な考え方が優先しているようだ。たゞ日系団体には加入しないが他の団体・クラブに参加している人も若干あるがその人達の大半はスポーツクラブへの参加である。今回調査では解らないが日系団体に加入している人でもこうした日系以外のスポーツクラブ等に参加している人は多いと考えられる。

29. 将来独立の計画はありますか。



(前回調査)

独立の計画のある方



(前回調査)

○将来独立の計画はありますか。

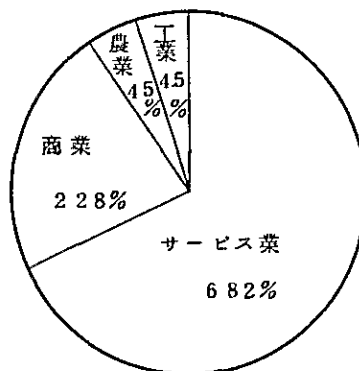
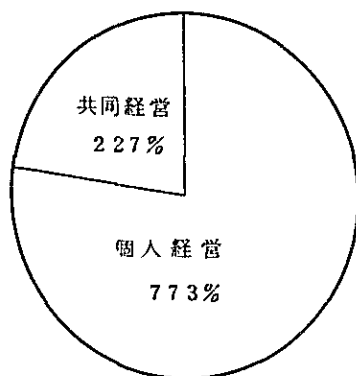
性別 在加年数 区分	男						女						総計		
	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満	未記入	計	7年以上	5年以上	3年以上	1年以上	1年未満		未記入	計
A あ る	26	10	12	6	1		55 (348) (1000)	1	2					3 (89) (1000)	58 (302) (1000)
(A) 農 業	1						1 (18)								1 (17)
(B) 工 業	9	1	3				13 (236)								13 (224)
(C) 商 業	7	5		1	1		14 (255)								14 (242)
(D) サービス業	6	4	8	4			22 (400)	1	2					3 (1000)	25 (431)
未 記 入	3		1	1			5 (91)								5 (86)
B な い	24	5	5	1			35 (221)	8	2		1			11 (323)	46 (239)
C わ か ら な い	22	7	13				42 (266)	4	2	2	3			11 (323)	53 (276)
すでに独立	10	3	5	1	1		20 (127)	1	1					2 (59)	22 (115)
未 記 入	3	2	1				6 (38)	7						7 (206)	13 (68)
計	85	27	36	8	3		158 (1000)	21	7	2	4			34 (1000)	192 (1000)

将来の独立計画については約1/3の者が「ある」と回答している。又、すでに独立している者も11.5%あった。独立計画のある者がどうした業種での独立を考えているかでは、40%強がサービス業と答えているが具体的な内容については決まっておらず希望といったところだろうか。全国調査に比して独立計画の有無等に大差はないが、農業における独立希望が著しく減少したことが目につく。

30. 独立自営者 現在の経営状況。

○経営主体は次のどれですか。

○経営事業は次のどれですか。



独立自営者現在の経営状況

事業別区分	性別		男					女					総計
	A	B	C	D	未記	計	A	B	C	D	未記	計	
	農業	工業	商業	サービス業	未記入		農業	工業	商業	サービス業	未記入		
A 個人経営	1		2	12		15 (750)			1	1		2 (1000)	17 (773)
B 共同経営		1	2	2		5 (250)							5 (227)
計	1	1	4	14		20 (1000)			1	1		2 (1000)	22 (1000)

A 農業	1 (45)
B 工業	1 (45)
C 商業	5 (228)
D サービス業	15 (682)
計	22 (1000)

独立自営者にその経営形態および事業業種を聞いたわけであるが、大半がレストラン、ギフトショップ等の個人経営によるものであった。資本金、現地での基盤を考えれば当然という結果かも知れない。

31. 記述回答を求めた質問について。

今回調査の内、記述回答を求めた質問について、夫々の回答の内典型的なものを次にまとめてみた。

(1) 移住の動機について

カナダ移住の動機については千差万別であるが、調査結果を総合すると次の傾向になると思われる。

① あこがれ型：

- ・美しい豊かな国のイメージ、広い大地、気楽な生活、自由な行動。広いのんびりしたところを求めて。
- ・少年のころより語学が好きで、外国に行くことを夢みていたことを実現するため。

② 脱出型：

- ・個性を大切にす個人対個人の考え方よりも日本の古いしきたりである家対家の考え方からの脱出。
- ・日本の年功序列制度からの脱出。

③ 目的志向型：

- ・外国での自己の力を発揮し、ためし、仕事にみがきをかけるため。
- ・欧米の物の考え方、習慣、言語を学び視野を広くするため。

④ 呼寄型：

- ・親・兄弟がカナダにいるので良いチャンスを求めて。
- ・結婚のため。

(2) 移住希望者へのアドバイス

大別すると調査回答の中にはこれからカナダへ定住しようとする移住者に対する貴重なアドバイスやカナダ定着直後の新移住者に対する既移住者の適切な体験にもとづいた提言がもられていた。

入加前のアドバイスで圧倒的に多かったのは、移住者としての心構えであった。次いで、語学と仕事に対してである。それらの内容は概して次の通りである。

① 心構え：

- ・語学、技術、忍耐が移住の条件で、プラス向学心が必要である。
- ・単なる外国へのあこがれではこないように。
- ・しっかりした目的と、長期の展望（5年～7年位）をたてて来るように。
- ・永住を前提にしてカナダに来ること。
- ・いきなり移住してくるのではなく、事前に旅行して、カナダのことを調べるなどして、下見してからにすること。
- ・多くの期待をしすぎないこと。人生どこで生きても大差ないぐらいの気楽な心構えが必要である。

② 語学：

- ・仕事によっては、ライセンスを取得しなければならないものも多いので、試験にパスするには、よほど語学を勉強しておかなければならない。
- ・英語（又は仏語）を充分習得して来るべきで日本での実力が生涯影響する。
カナダに来てから急に上達するものではない。
- ・英語が出来なくて卑屈にならないこと。

③ 仕事：

- ・最初に勤め先を見つけてから渡加することが望ましい。
- ・自己の求めた職種に関してカナダでの就職状況や内容を充分調査のうえ、渡加すべきである。
- ・自己の職種については、充分実力をつけてくること。

④ その他

- ・家族単位で来ること。
- ・カナダはとても良い国であるが、人間関係には、最初からある程度の覚悟をしておくこと。
私達が日本にいる白人を大事にしていたように、カナダの白人が私達を優遇してくれると思いと間違いである。
- ・人種問題に明確な信念を持つこと。
- ・友人に借金などで迷惑をかけないこと。

(3) 入加後の新移住者に対するアドバイスは次の通りである。

① 心構え。

- ・カナダ社会に早くとけこめるよう心がけること。
- ・何でも日本と比較しないこと。カナダにはカナダの生活方法がある。

② 付き合い

- ・さっぱりした付き合い方をすること。
- ・YES, NOをはっきりさせ、自分の立場を明確にすること。
- ・意見の交換によって、意志を伝えること。
- ・友達つきあいの上手でない人は精神上こまることになる。

③ その他

- ・新移住者協会へ問い合わせると便利である。

4. カナダ三洲（オンタリオ州・ケベック州・B・C州）移住者
アンケート集計の比較表

4. カナダ三州移住者アンケート集計の比較表

項 目	州 別	オンタリオ州 移住者 (今回調査)	ケベック州 移住者 (1977.12~ 78.3調査)	B・C州 移住者 (1976.12~ 77.3調査)
1 カナダに移住してよかったと思うか				
思う		568	554	640
普通		260	297	199
まだわからない		135	121	151
失敗		21	14	05
未記入		16	14	05
2 カナダに定住しますか				
定住する		521	446	564
まだわからない		380	473	387
他国へ転住		21	14	22
日本へ帰国		68	67	22
未記入		10	—	05
3 カナダに帰化しますか				
帰化する		406	297	446
まだわからない		386	514	409
帰化しない		135	149	64
未記入		73	40	81
4 カナダは期待どおりでしたか				
予想以上		83	149	130
予想どおり		552	500	575
予想以下		302	216	204
未記入		63	135	91
5 渡航時の携行金はどの位でしたか				
\$500以下		224	338	263
\$501~1000		255	176	263
\$1001~2000		234	297	248
\$2001以上		271	176	215
未記入		16	13	11
6 入加当初最も困ったことは				
言葉		609	398	432
風俗習慣のちがい		95	118	94
就職		89	108	163

州 別	オンタリオ州 移住者 (今回調査)	ケベック州 移住者 (1977.12~ 78.3調査)	B・C 州 移住者 (1976.12~ 77.3調査)
項 目			
住 居	31	43	26
相談相手のないこと	41	129	68
低 収 入	63	65	85
そ の 他	41	118	85
未 記 入	31	21	47
7 カナダでの最初の住居は			
日系団体の紹介	47	—	22
親戚・知人の紹介	458	541	430
マンパワーセンターの紹介	42	41	75
ボランティア機関の紹介	10	13	16
新聞等の広告	250	95	252
業 者	22	27	11
そ の 他	161	270	172
未 記 入	10	13	22
8 カナダで最初の仕事につくまでの期間は			
渡航前に決定していた	328	500	269
2週間以内	260	68	247
1カ月以内	156	81	140
2カ月以内	47	41	91
4カ月以内	83	—	59
4カ月以上	78	175	135
未 記 入	48	135	59
9 カナダでの最初の仕事は			
知人、友人の紹介	318	351	371
日系団体ボランティアの紹介	26	—	32
新聞等の広告	146	149	129
直接電話や訪問	161	135	172
マンパワーセンターの紹介	156	68	113
私設職業あっせん所の紹介	10	14	11
旅 行 中	0.6	—	0
そ の 他	104	94	108
未 記 入	73	189	64

項目	州 別		
	オンタリオ州 移住者 (今回調査)	ケベック州 移住者 (1977.12~ 78.3調査)	B・C州 移住者 (1976.12~ 77.3調査)
10 カナダでの転職状況は			
転職なし	182	405	167
1~3回	584	284	393
4~5回	130	41	188
6回以上	31	27	48
未記入	73	243	204
11 現在の仕事に満足していますか			
満足している	333	351	328
普通	344	338	398
不満である	234	189	156
未記入	89	122	118
12 貴方の仕事の分野で日本と比較し			
カナダの方が進歩している	83	135	128
同程度	302	311	241
遅れている	345	230	273
比較しえない	234	189	251
未記入	36	135	107
13 現在の収入は月額にして			
0または臨時収入	31	-	32
\$400以下	21	-	43
\$401~\$700	42	68	91
\$701~\$1,000	151	230	183
\$1,001~\$1,200	135	135	210
\$1,201以上	594	432	387
未記入	26	135	54
14 現在の1カ月の生活費は			
\$250以下	-	-	11
\$251~\$400	42	68	32
\$401~\$500	57	81	75
\$501~\$800	328	378	350
\$801以上	484	365	457
未記入	89	108	75

項目	州 別		
	オンタリオ州 移住者 (今回調査)	ケベック州 移住者 (1977.12~ 78.3調査)	B・C州 移住者 (1976.12~ 77.3調査)
15 現在の資産状況は			
\$ 500程度	1.0	4.1	1.6
\$ 1,000程度	3.6	1.4	3.3
\$ 2,500程度	4.7	9.5	7.0
\$ 5,000程度	16.7	16.2	18.8
\$ 10,000以上	59.4	47.2	53.2
未記入	14.6	21.6	16.1
16 現在の負債状況は			
なし	22.9	29.7	15.1
\$ 2,000以下	11.0	9.5	13.4
\$ 2,001~\$ 4,000	3.1	1.4	4.3
\$ 4,001~\$ 6,000	1.0	2.7	3.8
\$ 6,001以上	39.6	25.7	42.4
未記入	22.4	31.0	21.0
17 借入は容易でしたか			
非常に容易であった	31.8	23.0	31.9
容易であった	22.4	21.6	22.9
普通	11.5	2.7	12.3
困難であった	1.6	-	2.1
非常に困難であった	0.5	-	2.1
借りたことがない	8.8	14.9	6.9
未記入	23.4	37.8	2.8
18 借入先は			
銀行	76.1	41.9	68.4
日系団体	1.4	-	-
知人・友人	2.8	1.4	0.5
その他	17.6	4.0	4.8
未記入	2.1	52.7	26.3
19 カナダでの言語習熟法は			
マンパワーセンター等の語学訓練	16.8	13.3	11.8
学校に通学	34.9	32.2	32.3
家庭教師	2.6	2.2	2.7

項目	州別		
	オンタリオ州 移住者 (今回調査)	ケベック州 移住者 (1977.12~ 78.3調査)	B・C州 移住者 (1976.12~ 77.3調査)
独学	280	267	355
その他	12.9	222	132
未記入	48	34	45
20 英語(仏)の不自由は感じますか			
ほとんど感じない	250	419	242
日常生活に特に不自由ない	46.9	392	453
不自由で勉強中	7.8	2.7	14.7
不自由だが特に勉強していない	16.1	13.5	14.2
未記入	4.2	2.7	1.6
21 職場等で英語に慣れるまでの期間は			
最初から	14.6	20.3	17.7
3カ月程度	12.5	12.1	22.6
6カ月程度	13.5	20.3	21.0
1カ年程度	14.6	13.5	11.8
2カ年程度	14.6	5.4	4.8
3カ年以上	21.9	8.1	12.4
未記入	8.3	20.3	9.7
22 子供の日本語教育はどう考えますか			
(子供をお持ちの方)			
必要あり。日本語学校に通わせている	32.5	12.2	15.0
必要あるがまだ通わせていない	56.4	53.7	55.8
必要ない。家庭教育でよい	8.5	26.8	22.1
全く必要ない	0.9	2.4	0.9
未記入	1.7	4.9	6.2
(独身又は子供のない夫婦の方)			
必要あり	66.7	66.7	67.1
必要ない。家庭教育でよい	17.3	18.2	13.7
必要ない。カナダの学校教育でよい	6.7	6.1	6.9
未記入	9.3	9.0	12.3
23 子供の学校による日本語教育は			
学校・教師教員教材とも普通程度	11.1	2.5	8.3
学校が足りない。	11.1	13.6	17.2

項目	州 別		
	オンタリオ州 移住者 (今回調査)	ケベック州 移住者 (1977.12~ 78.3調査)	B・C 州 移住者 (1976.12~ 77.3調査)
教師が足りない	138	124	98
教具・教材が足りない	204	86	113
その他	188	123	137
未記入	248	506	397
24 結婚の相手については(未婚者のみ)			
日本から呼びたい	255	-	219
当地の日本人を選びたい	107	15.8	94
日系2世か3世を選びたい	-	-	-
日系以外から呼びたい	43	5.3	31
人種・民族を問わない	319	68.4	40.6
今のところ考えていない	255	-	18.8
未記入	21	10.5	6.2
25 未婚の方で日本からと答えた方は		(回答 0)	
結婚相手をどう捜しますか			
親族親戚を通じ	40.0	-	33.3
知人・友人を通じ	26.7	-	25.0
移住関係者を通じ	13.3	-	-
一時帰国して	20.0	-	25.0
その他	-	-	16.7
未記入	-	-	-
26 既婚の方で日本から夫人を呼ばれた方は	設問が異なるため比較できず		
27 結婚問題で阻害要因は			
対象者が少ない	37.0	27.0	32.5
対象者を捜す機会が少ない	18.2	16.2	21.3
仲介者がいない。または少ない	2.6	2.7	4.6

項目	州別	オンタリオ州 移住者 (今回調査)	ケベック州 移住者 (1977.12~ 78.3調査)	B・C州 移住者 (1976.12~ 77.3調査)
	経済的に困難		21	-
その他		94	149	56
未記入		30.7	392	35.5
28 新聞、雑誌は主として何をお読みですか (重複回答含む)				
日本から定期的に購読している		73	64	106
日本の知りあいから送られる		59	64	73
日本語のものを店頭で購入する		125	96	191
カナダの日本語誌を購読		249	128	93
英字または仏字のもののみ		97	277	167
日本語のもの英(仏)字のもの半々		380	329	329
未記入		1.7	42	4.1
29 カナダでの比較的親しい友人数は	設問が異なる為比較出来ず			
30 (1)日系人団体組織に加入しているか (加入している方)				
会合ある都度		330	257	222
2回に1回程度		70	57	127
数回に1回程度		190	229	238
ほとんど出席しない		260	400	159
全く出席していない		150	57	254
未記入		-	-	-
(加入していない方の理由)				
時間が合わない		271	230	351
勉強・研究を優先		188	26	81
他の交際を優先		235	51	253
日本人とは交際しない		12	26	27
その他		294	564	288
未記入		-	103	-
30 (2)他のクラブ等のグループへの参加は	設問内容が異なるため比較出来ず			

項目	州別	オンタリオ州 移住者 (今回調査)	ケベック州 移住者 (1977.12~ 78.3調査)	B・C州 移住者 (1976.12~ 77.3調査)
31 将来独立の計画は				
ある		302	163	36.6
農業		(1.7)	(-)	(8.8)
工業		(22.4)	(83)	(13.2)
商業		(24.2)	(41.7)	(22.1)
サービス業		(43.1)	(41.7)	(48.5)
その他		(-)	(83)	(7.4)
ない		23.9	32.4	16.7
わからない		27.6	37.8	23.6
未記入		6.8	13.5	23.1
すでに独立		11.5		

5. 移住者連絡先一覧

- (1) 在カナダ日本公館等一覧 85
- (2) カナダの主要マンパワーセンター等一覧 86
- (3) オンタリオ州目的別連絡先一覧..... 87

(1) 在カナダ日本公館等一覧

1	在カナダ日本大使館 〔Embassy of Japan〕	住所 Fuller Bldg., Suite 1005, 75 Albert St., Ottawa K1P Ontario Canada. Tel (613) 233-6214
2	在モントリオール総領事館 〔Consulate-General of Japan〕	住所 Suite 2701, 1155 Dorchester Blvd. West, Montreal 102 P.Q., Canada. Tel (514) 866-3429 管轄 ケベック州, ニュー・ファウンドランド州, プリンス・エドワード・アイランド州, ノバ ・スコシア州, ニュー・ブランズウィック州
3	在トロント総領事館 〔Consulate-General of Japan〕	住所 Toronto-Dominion Center, Suite 1803, P. O. Box 10, Toronto 111, Ontario, Canada Tel (416) 363-7038 〔管轄 オンタリオ州〕
4	在バンクーバー総領事館 〔Consulate-General of Japan〕	住所 1210-1177 West Hasting st. Vancouver 1, B.C., Canada. Tel (604) 684-5868 〔管轄 ブリティッシュ・コロンビア州, ユーコン準州〕
5	在ウィニペグ総領事館 〔Consulate-General of Japan〕	住所 301 Tribune Bldg., 257 Smith St., Winnipeg, Manitoba R3C 1K9, Canada. Tel (204) 943-5554 〔管轄 マニトバ州, サスカチュワン州〕
6	在エドモントン総領事館 〔Consulate-General of Japan〕	住所 Suite 2600, 10020-100th St., Edmonton, Alberta Canada. Tel (403) 422-3752 〔管轄 アルバータ州, ノースウエスト準州〕
7	国際協力事業団トロント 駐在員事務所 〔Annex Office, Consulate General of Japan〕	住所 Suite 1910 P.O. Box 93, Royal Trust Tower, Toronto-Dominion Centre, Toronto, Ontario, Canada Tel (416) 364-1627

8	新移住者協会 New Japanese Canadian Association	住所 5 Median Crescent, Scarborough, Ontario, Canada
9	移住者の会 JAPANESE IMMIGRANTS ASSOCIATION	P. O. Box 69012, Station K, Vancouver, B.C. Canada. Tel 324-1254
10	南アルバータ新移住者協会 South Alberta New Emigrant Association	a/c Yas Arima P. O. Box 2603, Taber, Alberta, Canada.
11	カルカリー新移住者の会	a/c Sato Food 5320 17th Ave, S.E. Calgary, Alberta, Canada.

(2) カナダの主要マンパワー・センター等一覧

	OFFICE AND CENTRE	ADDRESS	TELEPHONE NO.
1	ONTARIO REGIONAL OFFICE	P. O. Box 23, Toronto Dominion Center, Toronto 111	(416) 369-3755
2	QUEBEC REGIONAL OFFICE	550 Sherbrooke St. W., Montreal 111, P. Q.	879-4604
3	PRAIRIE REGIONAL OFFICE	Royal Bank Bldg. 220 Portage Ave, Winnipeg, Manitoba	985-2261
4	PACIFIC REGIONAL OFFICE	Royal General Insurance Bldg., 1155 West Pender St., Vancouver, B.C.	683-6971
5	MONTREAL MANPOWER CENTRE	National Revenue Bldg. 305 Dorchester Blvd. W., Montreal Metro, P. Q.	879-5200
6	WINNIPEG MANPOWER CENTRE	344 Edmonton St. Winnipeg, Manitoba	943-0861
7	EDMONTON MANPOWER CENTRE	10015-103rd. Ave., Centennial Bldg., Edmonton, Alberta	429-2621
8	CALGARY MANPOWER CENTRE	1123-4th St. S., Calgary Alberta	263-0540
9	VANCOUVER MANPOWER CENTRE	549 Howe St., Vancouver B.C.	681-8253
10	MANPOWER CONSULTATIVE SERVICE	P. O. Box 23, Toronto Dominion Center, Toronto 111	(416) 369-3755 369-3761

(3) オンタリオ州の目的別連絡先一覧

目的	内容	機関名	住所	連絡先
1 移住	移住の手続	IMMIGRATION DIVISION OF MANPOWER AND IMMIGRATION	480 UNIVERSITY AVE., TORONTO, ONT.	598-4444
	新移住者の相談	ONTARIO RECEPTION SERVICES	P.O. BOX 192 TORONTO INTERNATIONAL AIRPORT MALTON ONT.	678-2540
	移住者の一般的相談	ONTARIO CITIZENSHIP BRANCH MINISTRY OF COMMUNITY AND SOCIAL SERVICES	77 BLOOR ST. W., 5TH FLOOR, TORONTO, ONT.	965-2285
	パスポートの更新, 在留届など	CONSULATE GENERAL OF JAPAN(日本総領事館)	TORONT DOMINION CENTRE BANK TOWER SUITE 1803, TORONTO, ONT.	363-7038
2 職業	中央の職業紹介	COMMERCIAL AND PROFESSIONAL	TORONT DOMINION CENTRE	363-5931
	西部の職業紹介	CANADA MANPOWER CENTRE TORONTO WEST	4TH FLOOR, TORONTO, ONT. 2986 DUNDAS ST. W., TORONTO, ONT.	763-3611
	北部の職業紹介	CANADA MANPOWER CENTRE EAST YORK	5799 YONGE ST., WILLOWDALE, ONT.	221-9373
	東部の職業紹介	CANADA MANPOWER CENTRE SCARBOROUGH	1600 MIDLAND AVE., SCARBOROUGH, ONT.	751-9520
	女性用の住宅相談	CANADA MANPOWER CENTRE WILLARD HALL	20 GERRARD ST. E.	364-2007

	男性用の住宅相談 家族用の住宅相談 (5月~8月のみ) 緊急用の住宅相談 民宿の相談	YMCA NEIL WYCIK HOTEL TORONTO COMMUNITY HOSTEL TRAVELERS AID	40 COLLEGE ST. 96 GERRARD ST. E. 191 SPADINA AVE. ROOM REGISTRY 2195 YONGE ST., TORONTO	921-5174 367-0320 925-4431 366-7788 482-1111
4	健康保険 O. H. I. P. (州政府保険) [到着後3ヶ月以内に申請すること。]	ONTARIO HEALTH INSURANCE COMMISSION		
5	家族手当 連邦政府による援助 [18才未満の子供に支払われる。 毎月子供一人あたり\$23.89]	DEP. OF NATIONAL HEALTH AND WELFARE ONTARIO REGIONAL OFFICE	789 DON MILLS RD., DON MILLS	423-6900



JICA

LIB